大東市埋蔵文化財調査報告第25集

中　垣　内　遺　跡

―関西電力株式会社架空送電線鉄塔〔No.256〕建替えに伴う発掘調査―

２００６年３月

大東市教育委員会

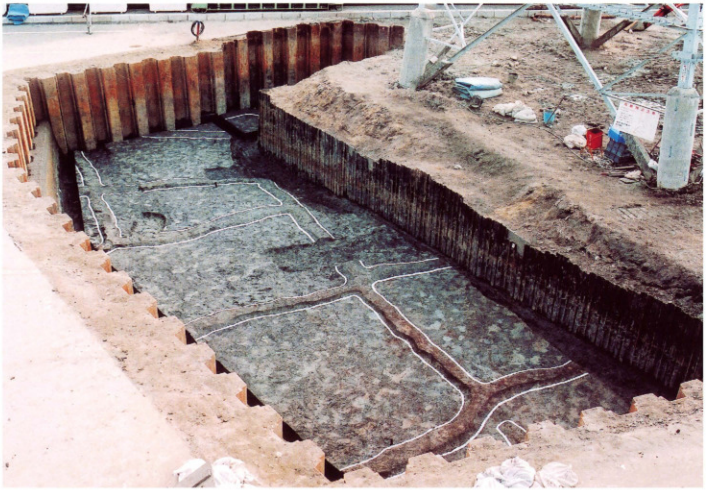
大東市埋蔵文化財調査報告第25集

中　垣　内　遺　跡

—関西電力株式会社架空送電線鉄塔〔№256〕建替えに伴う発掘調査—

２００６年３月

大東市教育委員会



1．C区　水田跡（第4遺構面）

2．C区　NR－C501（北より）

序　　文

大阪府の北東部に位置する大東市は、東部に飯盛山を含む生駒山系が南北に連なり、西部では古くは河内湾、河内湖、また江戸時代の中頃までは深野池という大きな池があり、山と海に彩られた多様な地形環境のなかで古来より豊かな自然を有していました。

そのような環境のなかで先人は個性ある歴史、また豊かな文化を育んできました。そして、その名残である遺跡、石造物、古文書など、いわゆる文化財も数多く残されています。

この度、報告することになりました中垣内遺跡は昭和34年以来、数十回にわたって調査が実施されてきまして、遺跡の様相については多くのことが明らかにされてきました。

今回の発掘調査につきましても縄文～近世に至る実態を明らかにすることができ、中垣内遺跡の歴史的価値をあらためて確認するとともに、大東市の歴史・文化を語るうえで、たいへん貴重な成果を得ることができたと思われます。

今後、これらの成果を市民共有の財産として活用していくと共に、本報告書が本市の歴史や文化を知る基礎資料として活用され、歴史や文化財に対する理解を深めるための契機となれば幸いに存じます。

最後になりましたが、発掘調査および整理作業の費用負担をはじめ多大なご協力を賜りました関西電力株式会社をはじめ、お世話になりました関係機関・各位に厚くお礼申し上げます。

また教育委員会では、今後とも先人より受け継いできました貴重な文化財を大切に保存し、未来を担う次世代に託したく努力する所存でありますので、市民の皆様方におかれましては今後とも本市の文化財保護行政にご理解、ご協力賜りますよう心よりお願い申し上げます。

平成18年3月

大東市教育委員会
教育長　中　口　　馨

例　　言

1．本書は、大阪府大東市中垣内４丁目における中垣内遺跡発掘調査（ＮＧＴ96―１）の報告書である。
2．調査は架空送電線鉄塔（Ｎｏ.256）建替に伴うもので、関西電力株式会社大阪南支店より依頼を受け、大東市教育委員会が実施した。
3．発掘調査及び整理作業は大東市立歴史民俗資料館、中遠健一が担当した。
4．調査面積はＡ区36.2㎡、Ｂ区37.2㎡、Ｃ区118.39㎡、合計191.79㎡で、調査期間は平成８年９月25日～平成９年２月25日である。
5．本調査に係る費用については関西電力株式会社大阪南支店がこれを負担した。記して感謝の意を表する。
6．現地調査、整理作業にあたっては下記の諸氏の協力を得た。（敬称略、五十音順）

［現地調査］

大谷聡、甲斐範浩、谷崎光子、樋口里美、森石千枝子、吉野正泰

［整理作業］

大谷聡、甲斐範浩、谷崎光子、樋口里美、宮田八重子、村尾奈津子、森石千枝子、吉野正泰

8．本調査における基準点、水準点測量はワールド航測コンサルタント株式会社（現株式会社ワールド）に委託した。
9．本調査で使用した座標は国土座標第Ⅵ系であり、方位は座標北を使用している。また、標高は東京湾標準潮位である。尚、国土座標の数値については日本測地系での表示である。
10．報告書作成に係る一部図面作成、遺物観察表、遺物写真撮影を、大東市教育委員会の指導のもと、財団法人元興寺文化財研究所に委託した。
11．本書の執筆、編集は中逵が行った。
12．本調査に関わる遺物、実測図、写真、カラースライド等は大東市立歴史民俗資料館において保管している。広く利用されることを希望する。

本 文 目 次

序文
例言
第１章　調査に至る経緯 …… 1
第２章　遺跡の位置と環境 …… 3
第３章　調査の方法 …… 6
第４章　調査成果 …… 8
　第１節　基本層序 …… 8
　第２節　第１遺構面 …… 13
　第３節　第２遺構面 …… 18
　第４節　第３遺構面 …… 22
　第５節　第４遺構面 …… 29
　第６節　第５遺構面 …… 33
第５章　まとめ …… 38

挿 図 目 次

第１図　調査地位置図 …… 2
第２図　大東市位置図 …… 3
第３図　周辺遺跡分布図 …… 5
第４図　調査区区割図 …… 6
第５図　Ａ区調査区北壁断面図 …… 9
第６図　Ｂ区調査区北壁断面図 …… 9
第７図　Ｃ区調査区北壁断面図 …… 10
第８図　Ｃ区調査区東壁断面図 …… 10
第９図　包含層等出土遺物(1) …… 11
第10図　包含層等出土遺物(2) …… 12
第11図　第１遺構面全体図 …… 15～16
第12図　第１遺構面各遺構平・断面図 …… 17
第13図　第１遺構面出土遺物 …… 17
第14図　第２遺構面全体図 …… 19～20
第15図　第２遺構面各遺構断面図 …… 21
第16図　第２遺構面出土遺物 …… 21
第17図　第３遺構面全体図 …… 23～24
第18図　第３遺構面各遺構断面図 …… 27
第19図　ＳＤ―Ｃ301平・断・遺物出土状況図 …… 28
第20図　ＳＫ―Ｃ302平・断・遺物出土状況図 …… 28

第21図　第３遺構面出土遺物 …… 28
第22図　第４遺構面全体図 …… 31～32
第23図　包含層（第５遺構面直上）遺物出土状況図 …… 33
第24図　ＳＫ―Ｃ501平・断・遺物出土状況図 …… 33
第25図　第５遺構面全体図 …… 35～36
第26図　第５遺構面各遺構断面図 …… 37
第27図　第５遺構面出土遺物 …… 37

表　目　次

第１表　出土遺物一覧表 …… 39

写真図版目次

巻頭カラー図版１
１．Ｃ区水田跡（第４遺構面）　２．Ｃ区ＮＲ―501（北より）
図版１　遺構(1)
１．Ａ区第１遺構面全景（北より）　２．Ｂ区第１遺構面全景（西より）
図版２　遺構(2)
１．Ｃ区第１遺構面全景（北より）　２．Ｃ区ＳＤ―Ｃ101（北より）
図版３　遺構(3)
１．Ａ区第２遺構面全景（北より）　２．Ｃ区第２遺構面全景（北より）
図版４　遺構(4)
１．Ｃ区ＳＤ―Ｃ204・Ｃ205・Ｃ206（南より）　２．Ａ区第３遺構面全景（北より）
図版５　遺構(5)
１．Ｂ区第３遺構面全景（北より）　２．Ｃ区第３遺構面全景（北より）
図版６　遺構(6)
１．Ｃ区ＳＫ―Ｃ302（東より）　２．Ｃ区ＳＫ―Ｃ302遺物出土状況
図版７　遺構(7)
１．Ｃ区ＳＤ―Ｃ301遺物出土状況　２．同上（北より）
図版８　遺構(8)
１．Ｃ区第４遺構面全景（北より）　２．Ｃ区水田跡（南より）
図版９　遺構(9)
１．Ｃ区水田跡（東より）　２．Ｃ区水田跡水口（東より）
図版10　遺構(10)
１．Ｃ区第Ⅴ層遺物出土状況（南東より）　２．Ａ区ＳＸ―Ａ401
図版11　遺構(11)
１．Ａ区ＳＸ―Ａ401断面（北西より）　２．Ｂ区第４遺構面全景（北より）

図版12　遺構⑫
1．C区第５遺構面全景（北より）　2．C区第５遺構面全景（南より）
図版13　遺構⑬
1．C区ＮＲ―C501（北より）　2．C区ＮＲ―C501断面
図版14　遺構⑭
1．C区ＳＫ―C501（北より）　2．C区ＳＫ―C501遺物出土状況（北より）
図版15　出土遺物(1)
図版16　出土遺物(2)
図版17　出土遺物(3)
図版18　出土遺物(4)
図版19　出土遺物(5)
図版20　出土遺物(6)
図版21　出土遺物(7)

第１章　調査に至る経緯

中垣内遺跡は昭和34年に関西電力株式会社東大阪変電所建設の際に発見された遺跡である。それに伴う緊急調査が一部実施されており、限られた条件下の調査であったにもかかわらず竪穴住居跡などを検出し、また弥生土器など大量の遺物が出土したことから、当時においては弥生時代の集落遺跡として多大な評価を得た遺跡であった。

その後、長年にわたり発掘調査の機会には恵まれなかったが、昭和62年の大阪産業大学の校舎建設に伴う調査を皮切りに、昭和62～63年にかけては変電所敷地内における４ヶ所の調査など、現在に至るまで昭和34年の調査を含めば、合計13次にわたる調査が実施されている。その結果、遺跡としては集落を中心とした縄文時代から近世に至る複合遺跡との性格が与えられているが、大東市域では現在においても弥生時代を代表する遺跡となっている。

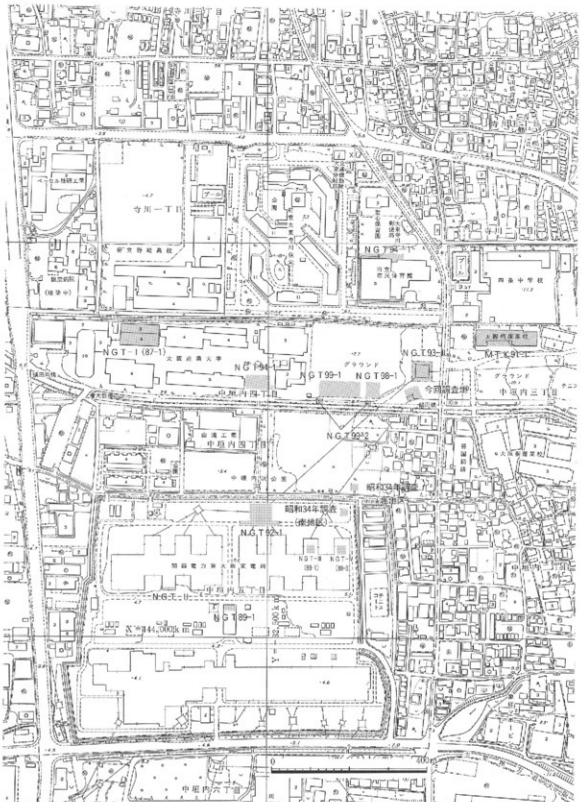
今回の調査は、関西電力株式会社大阪南支店により架空送電線鉄塔の増強工事の事業計画がなされたことによる。この事業計画は電力需要の増加のため、将来において電力供給不足の状態が懸念されることから、東大阪変電所の電力容量を増やすこととなり、そのため一部送電線（多奈二火力線）鉄塔を大型化するために既存の鉄塔を建替えるというものであった。

これらの計画のうち、特に東大阪変電所が中垣内遺跡内に立地することが周知されていたこともあり、関西電力株式会社大阪南支店より本市教育委員会に当該事業における埋蔵文化財の取り扱いについての事前協議の申し入れがあった。

本市教育委員会では、文化財保護法第57条の２に基づく届出の提出を求めるとともに、工事によって遺跡の損壊が想定される場合には工事の設計変更による現状保存または発掘調査が必要である旨を伝えた。

以上の協議を経て、まず当該事業における多奈二火力線Ｎｏ.256号と呼称される鉄塔が対象とされ、平成８年５月15日に本市教育委員会が範囲確認調査を実施したところ、遺物を多量に含んだ包含層を確認するなど遺跡の広がりが確認された。その後、遺跡の保存に関して協議を行ったが、事業内容の特殊性もあり計画変更は困難であるとのことから発掘調査を実施することで合意した。

調査は既設鉄塔部分を除いた鉄塔拡幅部分191.79㎡を対象に、平成８年９月25日から開始し、翌年２月25日まで実施した。



第１図　調査地位置図（Ｓ＝1/5000）

第２章　遺跡の位置と環境

中垣内遺跡は大阪府大東市中垣内一帯にかけて所在し、南北約850m、東西約１㎞の範囲を持つと推定されている遺跡である。これまで数次にわたって調査が行われており縄文時代から近世にかけての複合遺跡であることが明らかにされている。特に弥生時代の集落跡としては有名である。

地理的には、鍋田川によって形成された扇状地とその西方に広がる沖積地にかけて立地している。

以下、周辺の遺跡を中心に歴史的推移を概観する。

〈旧石器時代〉

中垣内遺跡からナイフ形石器が出土している。しかし、昭和34年における調査のため、出土状況など詳細は明らかでないが、この時代の遺物としては現在のところ市内唯一のものである。

第２図　大東市位置図

〈縄文時代〉

集落を示すような具体的な遺構は検出されていないため、様相については明らかではない。唯一、中垣内遺跡で中期後半の土坑状の遺構と推測されるものが確認されているのみである。遺物では、北条遺跡、宮谷古墳群で草創期の有舌尖頭器などが出土・採集している他、土器では包含層等からの出土ではあるが主に扇状地及び周辺の遺跡から早期末～前期初頭の可能性のある土器片から晩期に至るまでほぼ全時期を通して見受けられる。

そして、磨耗を受けず比較的残りの良好な遺物も多いことから丘陵、扇状地などに集落跡の存在した可能性は十分あると考えられる。

〈弥生時代〉

この時代から市域においても遺構を伴う遺跡が多数確認されるようになる。前～中期の集落跡が確認された中垣内遺跡、北条西遺跡、後期の竪穴住居を検出した北条遺跡などがある。また、中垣内遺跡の東に位置する鍋田川遺跡では後期のまとまった遺物が出土しており、当時の集落の動向を考えるうえでも重要な遺跡であることが明らかになりつつある。

〈古墳時代〉

当時、河内湖東岸に位置していた市域においても多数の集落が営まれるようになり、前期では鍋田川遺跡、中～後期にかけては北新町遺跡、メノコ遺跡などがある。特に特徴的な様相としては初期須恵器、畿式系土器、鳥足文を施した陶質土器の出土など渡来系的な影響の強い遺物が目立ち、先に述べた河内湖東岸という地勢的環境からも頷けるものである。

古墳に関しても多くの古墳、古墳群が周知されているが、残念ながら詳細の解らないものが多い。その中において城ヶ谷遺跡、北条遺跡、宮谷古墳群、堂山古墳群で古墳の調査が行われている。特に堂山古墳群では三角板皮綴短甲、衝角付冑、鉄刀、鉄鏃など多量の鉄製武器、武具類が出土していることから当時の有力な首長墓と考えられており、当時の社会を考えるうえで貴重な成果をあげている。

〈古代〉

奈良時代では北新町遺跡、寺川遺跡で集落が確認、推測されている。特に北新町遺跡では人面墨書土器が出土し、また寺川遺跡では「白麻呂」と墨書された土器が出土するなど、官衙的集落の存在が推定されている。

平安時代では寺川遺跡で集落跡が確認されている。特に、直径１ｍ程の木を刳り貫いた井筒などは注目され、また河川跡からはウマの骨が一体復元出来るほどの出土があり、通常の集落とはかなり違う様相を示している。

〈中世〉

北新町遺跡で12～13世紀を中心とした集落跡、御領遺跡で13～14世紀の集落跡が確認されており、市域における中世の様相も明らかにされてきている。また、城跡に関しても、戦国武将、三好長慶の飯盛城、その支城とされる野崎城、キリシタンで有名な三箇サンチョの三箇城などが知られている。ただ、考古学的には飯盛城において発掘調査がわずかに実施されているのみで残念ながら詳細は明らかにされていない。

〈近世〉

大阪城の築城、また江戸幕府による再築の際、石垣用石材の供給地であった石切場跡や、宝永元年(1704)の大和川付け替えに伴い新田開発が盛んになるが、その管理施設であった平野屋新田会所などがある。

また西諸福遺跡では深野池、新開池とは別の池と推定される遺構が検出されており、備前擂鉢、壺、美濃窯系天目茶碗、胎土目唐津窯系皿、堺擂鉢、石臼などの陶磁器類がまとまって出土している。

(引用・参考文献)

大阪府史編集専門委員会　1991年　『大阪府史』別巻　大阪府

大東市教育委員会　1973年　『大東市史』

大東市教育委員会　1987年　『寺川・北条遺跡発掘調査報告書』大東市埋蔵文化財調査報告第１集

大東市教育委員会　1989年　『大東市埋蔵文化財発掘調査概報』大東市埋蔵文化財調査報告第３集

大東市教育委員会　1990年　『城ヶ谷遺跡発掘調査報告書』大東市埋蔵文化財調査報告第６集

大東市教育委員会　1997年　『中垣内遺跡発掘調査報告書』大東市埋蔵文化財調査報告第11集

大東市教育委員会　1997年　『寺川遺跡発掘調査報告書』大東市埋蔵文化財調査報告第13集

大東市教育委員会　1998年　『メノコ遺跡発掘調査報告書』大東市埋蔵文化財調査報告第14集

大東市教育委員会　1999年　『御領遺跡』大東市埋蔵文化財調査報告第15集

大東市教育委員会　2000年　『四諸福遺跡発掘調査報告書』大東市埋蔵文化財調査報告第17集

大東市教育委員会　2004年　『中垣内遺跡発掘調査報告書』大東市埋蔵文化財調査報告第20集

大東市教育委員会　2002年　『旧平野屋新田会所屋敷と建物』大東市文化財調査報告書

大東市北新町遺跡調査会　1986年　『北新町遺跡第１次発掘調査概要報告書』

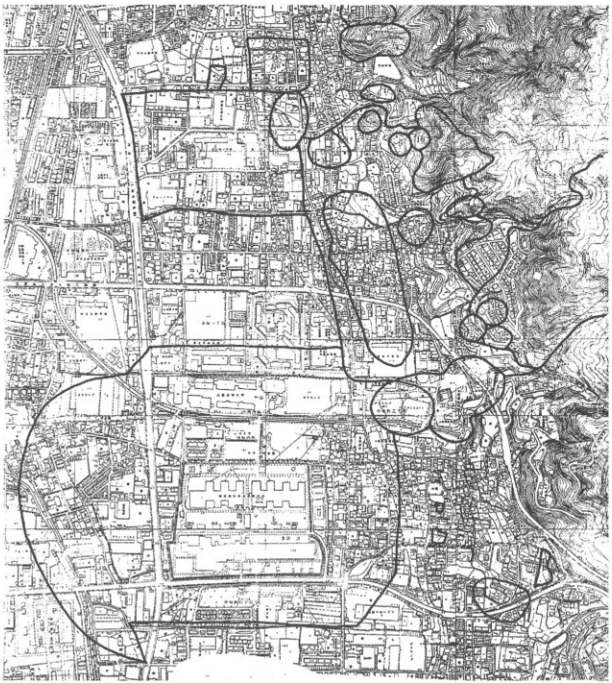
大東市北新町遺跡調査会　1991年　『北新町遺跡第２次発掘調査概要報告書』

大東市北新町遺跡調査会　1997年　『北新町遺跡第３次発掘調査概要報告書』

大阪府教育委員会　1993・1994年　『堂山古墳群』大阪府文化財調査報告書第四五輯

中蓮健一　1995年　「大東市・北条西遺跡（93・１次調査）」　『まんだ』第五十六号

黒田　淳　1988年　「大東市“宮谷古墳群の調査”」　『まんだ』第三十五号



1　福通寺古墳
2　福通寺遺跡
3　野崎条里遺跡
4　寺川派遺跡
5　メノコ遺跡
6　峯垣内遺跡
7　市水道寺川配水場古墳
8　瓦窯遺跡
9　堂山下古墳
10　堂山上遺跡
11　堂山古墳群１号墳
　　堂山古墳群２号墳～８号墳
12　六地蔵古墳
13　十林寺古墳
14　寺川古墳群
15　寺川遺跡
16　城の越上の段古墳
17　城の越古墳
18　大谷神社古墳
19　大谷古墳群
20　元裕（そうと）遺跡
21　鍋田川遺跡
22　中垣内遺跡
23　中垣内東遺跡
24　若宮東遺跡
25　若宮遺跡

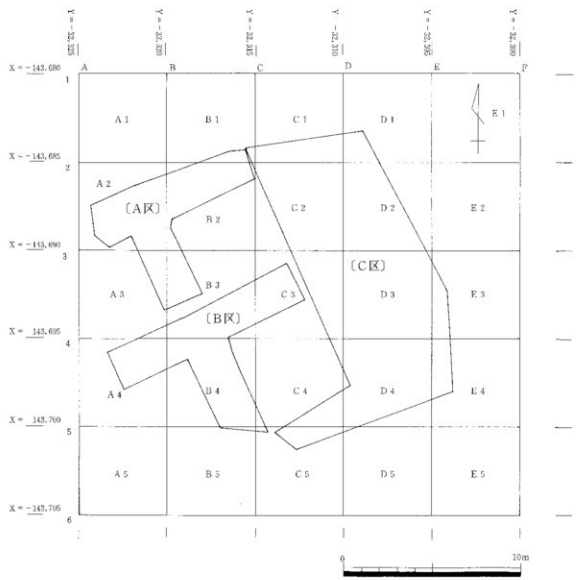
第３図　周辺遺跡分布図（Ｓ＝1/10000）

第３章　調査の方法

今回の調査区は既設の鉄塔の撤去と併行して大型の鉄塔を設置する工法によるため、調査時においては既設の鉄塔が残される状況であった。その状況から派生する諸事情のため、鉄塔拡幅部分については３ヶ所に分断されることになり、鉄塔の３ヶ所の部分をそれぞれＡ区、Ｂ区、Ｃ区とした。

掘削については、盛土、旧耕作土、床土までを機械掘削の対象とし、以下、包含層については層位ごとに人力による掘削を行った。そして、それぞれの層位面において遺構の確認を行いながら、地山面に至るまで順次繰り返した。

遺構の平面実測については、送電線等が走ることからクレーン、ヘリコプターなどによる空中写真測量は不可能であったため、すべて平板測量で実施した。また必要に応じて遺構平面図・断面図・遺物出土状況図を適宜作成した。



第４図　調査区区割図

調査区の区割り設定については、調査区付近においてA、B、C区をバランスよくカバーできるように考慮しながら任意の地点を決め、それを基点に国土座標第Ⅵ系による座標を使用して調査区全体を東西南北それぞれ5mごとに座標軸を順次配しながら囲み、調査区内に5m四方の区画を設定した。各区画の呼称については南北座標軸に西端を起点としてアルファベットを順次付し、また東西座標軸については北端を起点として算用数字を順次付すことにより各交点を記号化し、その北西隅の交点を用いている（第4図）。また、水準についてはT.P.（東京湾標準潮位）を使用している。先に述べた遺物出土状況など各種記録作業、また包含層などの遺物の取り上げについては、すべてこれらの基準に基づいている。また、報告書の記述においても同様である。

遺構番号については調査区毎、および遺構検出面ごとに付与しており、それらの各区名、各遺構面を示す数字は遺構番号の頭に冠している。

写真撮影については6×7の中型カメラによるモノクロ撮影、35㎜小型カメラによるモノクロ、カラーそれぞれにおいて撮影を行い、またスライドの作成も行っている

第４章　調査成果

第１節　基本層序

今回の調査ではＡ区で４面、Ｂ区で４面、Ｃ区で５面の遺構面を層位的に確認した。基本的な層序については以下の通りである。

［Ａ区］

第Ⅰ層　盛土。層厚は約1.0mを測る。

第Ⅱ層　暗緑灰色砂質土。層厚は約0.15～0.3mを測る。第１遺構面のベース層にあたる。

第Ⅲ層　暗緑色粘質土が主体をなす。層厚は約0.2mを測る。

第Ⅳ層　灰褐色粘質土が主体をなす。層厚は約0.3～0.4mを測る。第２遺構面のベース層にあたる。

第Ⅴ層　灰色砂混じり灰緑色シルト、褐灰色砂と暗褐色土の混合層が主体をなす。層厚は約0.2～0.3mを測る。

第Ⅵ層　黒色～黒灰色粘土。層厚は約0.3～0.6mを測る。第３遺構面のベース層にあたる。

第Ⅶ層　礫混じり黒灰色粘質土～粘土。層厚は約0.3mを測る。第４遺構面のベース層にあたる。また考古学でいう地山層でもある。

第Ⅷ層　黒色粘土。層厚は確認し得なかった。

［Ｂ区］

第Ⅰ層　盛土。層厚は約1.0mを測る。

第Ⅱ層　緑灰色砂質土が主体をなす。層厚は約0.1～0.2mを測る。第１遺構面のベース層にあたる。

第Ⅲ層　黄褐色～緑灰色粘質シルト。層厚は約0.3～0.4mを測る。

第Ⅳ層　灰色系のシルト、砂質土が主体をなす。層厚は約0.15～0.3mを測る。

第Ⅴ層　灰色砂が主体をなす。層厚は約0.2～0.3mを測る。第３遺構面のベース層にあたる。

第Ⅵ層　礫混じりの黒色粘土。層厚は約0.3～0.4mを測る。第４遺構面のベース層にあたる。また考古学でいう地山層でもある。

第Ⅶ層　暗灰緑色粘質土。層厚は確認し得なかった。

［Ｃ区］

第Ⅰ層　盛土。層厚は約1.0mを測る。

第Ⅱ層　灰緑色砂質土が主体をなす。層厚は約0.2mを測る。第１遺構面のベース層にあたる。

第Ⅲ層　灰緑色シルト、褐灰色シルト。層厚は約0.15mを測る。

第Ⅳ層　灰褐色粘質シルト、褐黄色粘質シルト主体をなす。層厚は約0.3～0.4mを測る。第２遺構面のベース層にあたる。

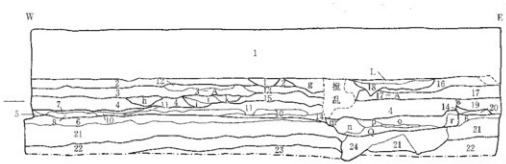
第Ⅴ層　灰色砂、淡灰青色微砂が主体をなす。層厚は約0.3～0.4mを測る。第３遺構面のベース層にあたる。

第Ⅵ層　黒褐色～黒灰色粘質シルト～粘土が主体をなす。層厚は約0.3～04mを測る。第４遺構面のベース層にあたる。

第Ⅶ層　黒灰色粘土。層厚は約0.3～0.4mを測る。

第Ⅷ層　暗灰黒色粘土。層厚は0.1～0.3を測る。

第Ⅸ層　礫混じり黒灰色粘質土。層厚は0.1～0.2mを測る。第５遺構面のベース層にあたる。また考古学でいう地山層でもある。



A区　北壁断面
1　盛土
2　縞状灰色砂質土
3　粘土質粘質土
3－A　灰黄色粘質土（砂分を含む）（シルトっぽい）
4　灰褐色粘質土（砂分を含む）
5　灰色～黒ヒ褐灰色砂（しまっている）
6　黒灰色粘土
7　明灰色砂

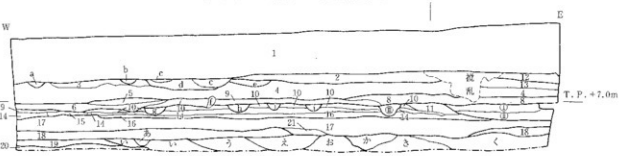
8　灰褐色シルト（砂分を含む）
9　灰色砂質土
10　灰色砂混じり灰褐色シルト
11　褐灰色砂（しまっている）と縞模色土の混合層
12　灰黄色砂と縞状灰色シルトの混合層
13　紅灰色土
14　暗灰色粗砂
15　暗褐灰色土

16　縞状灰色砂質土
17　灰黄色粘土質土（砂分を含む）
17－A　粘土質粘質土
18　褐色土と縞状灰色土の混合層
19　暗褐色砂質土（炭粒の可能性があった）
20　粘土質粘質シルト
21　黒色粘土（第5図）
22　褐炭ヒ色灰色粘質～粘土（第6図）※

23　黒色粘土（第7図）
24　黒灰色粘土（黒色がかる）
f　黒灰色土（SD－A101）
g　黒灰色土（SD－A102）
h　淡灰褐色シルト～土（SD－A201）※
i　淡灰褐色シルト～土（SD－A202）※
j　灰色粘質土（SD－A203）
k　暗灰色砂質じり淡灰色シルト～土（SD－A202）※

l　黒灰色土（SD－B102）
m　灰褐色砂（SX－A301）
n　緑灰色シルトと灰褐色砂質土の混合層（SX－A301）
o　暗褐～暗褐灰色砂混じり砂質土（SX－A301）※
p　緑灰色シルト（SX－A301）
q　緑灰色砂（SX－A301）
r　暗灰黄色砂（緑灰色粘土ブロックを含む）（SX－A301）

第5図　A区調査区北壁断面図



B区　北壁断面
1　盛土
2　灰色砂質土（砂分を含む）（第1面ベース層）
3　淡灰褐色砂質土（砂分を含む）（第2面ベース層）（第1遺構面）
4　黄褐色粘質シルト（砂分を多量に含む）（第2面ベース層）（第1遺構面）
5　淡灰褐色シルト（砂分を含む）（第2面ベース層）
6　暗灰黄色粘質シルト（第2面ベース層）
7　灰色砂質土～シルト（砂分を含む）（第2面ベース面）※

8　淡灰褐色砂質土（第3面ベース層）
9　黄褐色土質じり灰色砂質土（第3面ベース層）
10　灰色砂（第3層砂層）
11　淡灰色砂～砂質土（第4図）※
12　褐灰色砂質土（第1面ベース層）
13　褐灰色粘質シルト（第2面ベース層）
14　淡灰褐色シルト（第3面シルト層）
15　灰色砂
16　暗黒色粘質シルト
17　黒褐粘土（5mm内外の褐炭じり）

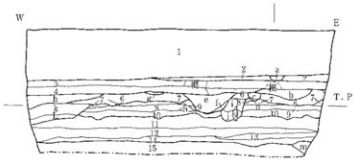
18　暗灰褐色砂質土（5mm内外の褐炭じり）
19　暗褐灰～暗灰色砂質土（5mm内外の褐炭じり）※
20　灰色粘土
21　黒褐色粘質土
a　灰色砂質土（砂分を含む）（SD－B103）
b　灰色砂質土（砂分を若干含む）（SD－B103）
c　暗灰色粘質土（砂分を含む）（SD－B102）
d　灰褐色砂質土～シルト（SD－B102）※
e　淡灰褐色シルト（SD－B101）

f　灰色砂質土（SD－B102の杭の痕）
g　灰褐色砂質じり灰褐色粘質シルト（SD－B301）
h　褐灰色粘質シルト（SD－B303）
i　暗灰色粘質シルト（SD－B304）
j　黒灰色粘質シルト（SD－B305）
あ　暗灰色粘質土（SD－B402）
い　灰黄色粘砂（SD－B402）
う　暗灰褐色粘質シルト（SD－B402）
え　暗灰色土ブロック混じり灰黄色粗砂（SD－B402）

お　淡灰褐色シルト（SD－B402）
か　黒灰色シルト（SD－B402）
き　灰褐色粗砂（SD－B402）
く　黒褐色粘土（SD－B402）
し　灰緑色砂質土（砂分を含む）（SX－B301）
す　暗灰緑色粘質土（淡灰褐色シルトブロックを含む）（SX－B301）
ま　淡灰褐色シルト混じり暗灰色砂（SX－B301）

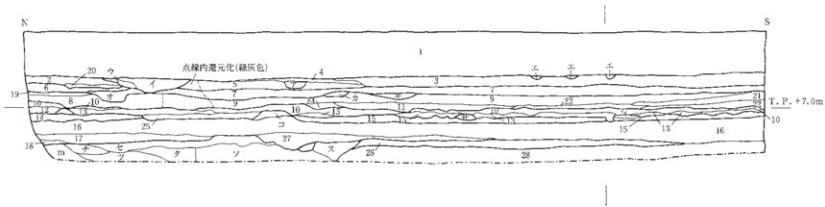
第6図　B区調査区北壁断面図

C区　北壁断面
1　盛土
2　にぶい灰褐色砂質土
3　緑灰色シルト～黒灰褐色シルト
4　淡灰緑色シルト～部淡灰褐色シルト
5　淡緑灰色シルト
6　灰褐色粘質シルト
7　灰色砂（鉄分を含む）
8　灰色シルト
9　黄褐色微砂混じり淡灰緑色微砂（鉄分を含む）
10　灰色砂ブロック混じり暗褐灰色粘土～粘土（水田ベース層）※
11　黒灰色粘土（上面にマンガンを含む）
12　2 mm内外の礫混じり黒灰色粘土
13　暗灰黒色粘土
14　5 mm内外の礫混じり黒灰色粘質土
15　5 mm内外の礫混じり黒灰色粘土
16　灰緑色砂質土



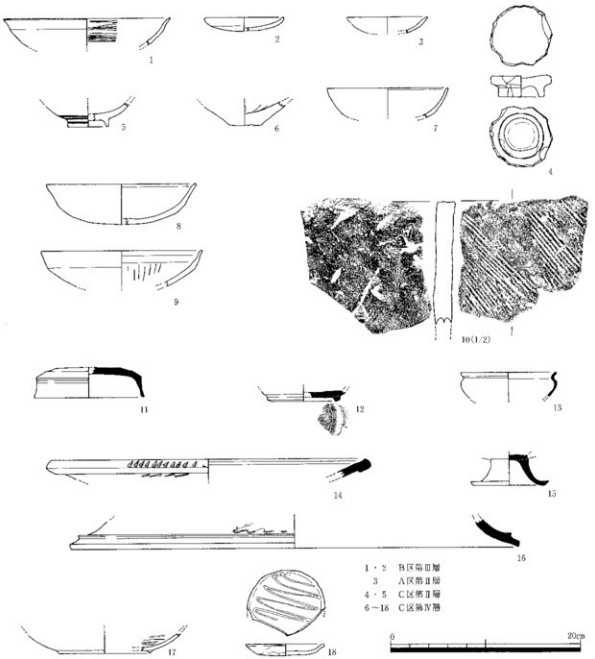
a　暗灰オリーブ砂質土混じり灰色砂質土（鉄C-101）
b　淡灰黄色シルト（SD-C204）
c　灰オリーブ色微砂（鉄分を含む）（SD-C205）
d　淡灰色粘土（SD-C205）
e　淡灰褐色シルト砂（鉄分を含む）（SD-C206）
f　灰色砂質土（SD-C206）
g　淡灰褐色微砂（鉄C-202）
h　淡褐灰色シルト（SK-201）
i　暗黄色砂質土（SK-C303）
j　褐灰色砂質土（SK-C303）
k　茶褐色土（黄褐色砂質シルトブロックを含む）（SD-C306）
l　灰色混じり褐灰色粘土（SD-C306）
m　淡灰青色土（灰黄色粘砂、5 mm内外の礫混じり褐灰色砂質土の混合層（NR-C501）
n　灰色砂質土（鉄分を多量に含む）（畦畔15）

第７図　Ｃ区調査区北壁断面図

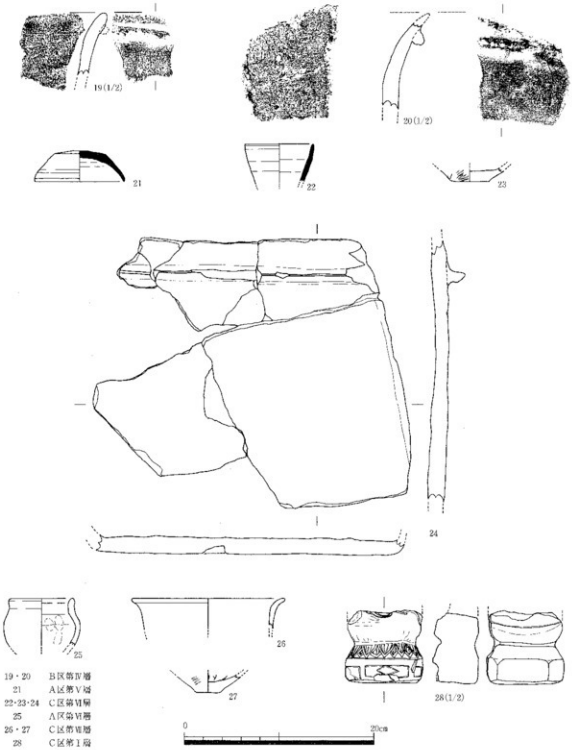


1　盛土
2　にぶい灰褐色砂質土
3　灰緑色粘質土
4　暗褐色土混じり灰色砂質土
5　淡灰褐色砂質土
6　灰緑色シルト～部灰褐色シルト
7　褐灰色シルト
8　灰褐色粘質シルト
9　褐黄色シルト
10　灰色砂（鉄分を含む）
11　灰色シルト
12　黄褐色微砂混じり淡灰緑色微砂（鉄分を含む）
13　淡灰黄色微砂（鉄分を含む）
14　灰色砂ブロック混じり暗褐灰色粘質土～粘土（水田ベース層）※
15　黒褐色～黒灰色粘質シルト～粘土※
16　黒灰色粘土（上面にマンガンを含む）
17　褐灰黒色粘土
18　5 mm内外の礫混じり黒灰色粘質土
19　灰緑色砂質土
20　灰色粘質土
21　淡青灰色粘質土
22　暗灰色粘質土
23　褐色混じり灰色粘質土
24　褐灰色粘質土
25　灰青色粘質土混じり灰色砂
26　5 mm内外の礫混じり黒灰色粘質土
27　5 mm内外の礫混じり褐灰黒色粘質土
28　5 mm内外の礫混じり暗灰黒色粘質土～粘土（灰色微砂を部分的に含む）※
ア　黄色微砂ブロック混じり灰色色微砂（黒い粒を含む）→強度ある遺構なし
イ　オリーブ褐色砂質土（SD-C101）
ウ　灰色砂質土（SD-C101）
エ　暗灰黒色土（鉄C105、106、107）
オ　黄灰色微砂（SD-C203）
カ　淡灰褐色シルト（SD-C202）
キ　淡灰褐色シルト（SD-C201）
ク　褐色土混じり灰色砂質土（SD-C302）
ケ　灰色土（鉄分を含む）（畦畔2）
コ　褐灰黄色粘質土（鉄分を含む）（畦畔5）
サ　暗青灰色粘土（畦畔3）
シ　褐青灰色粘土（畦畔13）
ス　暗緑灰色シルト（NR-C501）
セ　5 mm内外の礫混じり褐灰黒色砂質土（NR-C501）
ソ　灰黄色微砂（NR-C501）
タ　灰緑色砂（NR-C501）
チ　緑灰色砂質土（NR-C501）
ツ　灰黄色微砂（NR-C501）

第８図　Ｃ区調査区東壁断面図



第９図　包含層等出土遺物（１）



第10図　包含層等出土遺物（２）

第２節　第１遺構面

Ａ区第Ⅱ層、Ｂ区第Ⅱ層、Ｃ区第Ⅱ層をベース面として、溝、土坑、ピット、鋤溝を検出している。標高はＡ区でＴ．Ｐ．＋7.5m、Ｂ区でＴ．Ｐ．＋7.3m、Ｃ区でＴ．Ｐ．＋7.7mを測る

1．溝

［Ａ区］

・ＳＤ－Ａ101

Ａ２、Ｂ２区にかけて検出した。規模は幅約0.5m、深さ約0.24mを測る。埋土は暗灰色粘質土である。遺物は土師器、須恵器、陶磁器が出土している。

・ＳＤ－Ａ102

Ａ２、Ｂ２区にかけて検出した。規模は調査区外に広がるため明らかでない。埋土は暗灰色粘質土である。遺物は磁器が出土している。

［Ｂ区］

・ＳＤ－Ｂ101

Ｂ３～４区にかけて検出した。規模は幅約0.55m、深さ約0.1mを測る。埋土はマンガンを含む淡灰緑色粘質シルトである。遺物は土師器が出土している。

・ＳＤ－Ｂ102

Ａ３～４、Ｂ３～４区にかけて検出した。規模は幅約1.4m、深さ約0.2mを測る。埋土は２層で、暗灰色砂質土、鉄分を含む灰緑色シルトである。遺物は土師器が出土している。

・ＳＤ－Ｂ103

Ａ４区で検出した。規模は幅約0.3m、深さ約0.15mを測る。埋土は鉄分を含む灰緑色砂質土である。遺物は土師器、須恵器が出土している。

［Ｃ区］

・ＳＤ－Ｃ101

Ｄ２～５区にかけて検出した。規模は幅約0.75m、深さ約0.2mを測る。埋土は２層で、暗オリーブ灰色シルトブロック混じりの暗灰黒色土、鉄分を含む緑灰色砂質土である。遺物は土師器、須恵器、磁器、瓦が出土している。

2．土坑

［Ａ区］

・ＳＫ－Ａ101

Ａ２～３、Ｂ２～３区にかけて検出した。形態、規模は調査区外に広がるため明らかでない。埋土は暗灰色粘質土である。遺物は土師器、瓦質土器、磁器、瓦が出土している。

［Ｃ区］

・ＳＫ－Ｃ101

Ｄ２で検出した。形態、規模はＳＤ－Ｃ101に切られているため明らかでない。埋土は暗黄色シルト混じりの暗灰色土である。遺物は土師器、須恵器、磁器が出土している。

・ＳＫ－Ｃ102

Ｃ３区で検出した。形態、規模は攪乱に切られているため明らかでない。埋土は暗黄色シルト混じりの暗灰色土である。遺物は土師器が出土している。

・ＳＫ－Ｃ103

Ｄ３～４区にかけて検出した。形態、規模は攪乱に切られているため明らかでない。埋土は３層で

暗灰色土、暗灰色砂質土、暗黄色礫混じりの灰色砂質土である。遺物は土師器、須恵器、磁器、瓦が出土している。

・ＳＫ-Ｃ104

Ｄ４区で検出した。形態、規模は調査区外に広がるため明らかでない。埋土は暗黄色シルト混じりの暗灰色土である。遺物は土師器、磁器が出土している。

3．ピット

［Ｃ区］

・ＳＰ-Ｃ101

Ｃ２区で検出した。形態は円形を呈し、規模は径約0.38m、深さ約0.03mを測る。埋土は黒灰色土である。遺物は土師器、磁器が出土している。

・ＳＰ-Ｃ102

Ｃ３区で検出した。形態は円形を呈し、規模は径約0.6m、深さ約0.22mを測る。埋土は緑灰色シルトブロック混じりの黒灰色土である。遺物は土師器が出土している。

・ＳＰ-Ｃ103

Ｃ５区で検出した。形態は円形を呈し、規模は径約0.5m、深さ約0.24mを測る。埋土は暗灰色砂質土である。遺物は出土していない。

4．鋤溝

・鋤溝Ｃ101

Ｃ１～２、Ｄ１～２区にかけて検出した。規模は幅約0.5m、深さ約0.11mを測る。埋土は黒灰色である。遺物は土師器が出土している。

・鋤溝Ｃ102

Ｄ１～２区にかけて検出した。規模は幅約0.15m、深さ約0.02mを測る。埋土は黒灰色土である。遺物は土師器が出土している。

・鋤溝Ｃ103

Ｃ３区で検出した。規模は幅約0.15m、深さ約0.01mを測る。埋土は黒灰色土である。遺物は出土していない。

・鋤溝Ｃ104

Ｄ３区で検出した。規模は幅約0.2m、深さ約0.05mを測る。埋土は黒灰色土である。遺物は土師器、瓦が出土している。

・鋤溝Ｃ105

Ｄ３、Ｅ３区にかけて検出した。規模は幅約0.2m、深さ約0.05mを測る。埋土は黒灰色土である。遺物は土師器が出土している。

・鋤溝Ｃ106

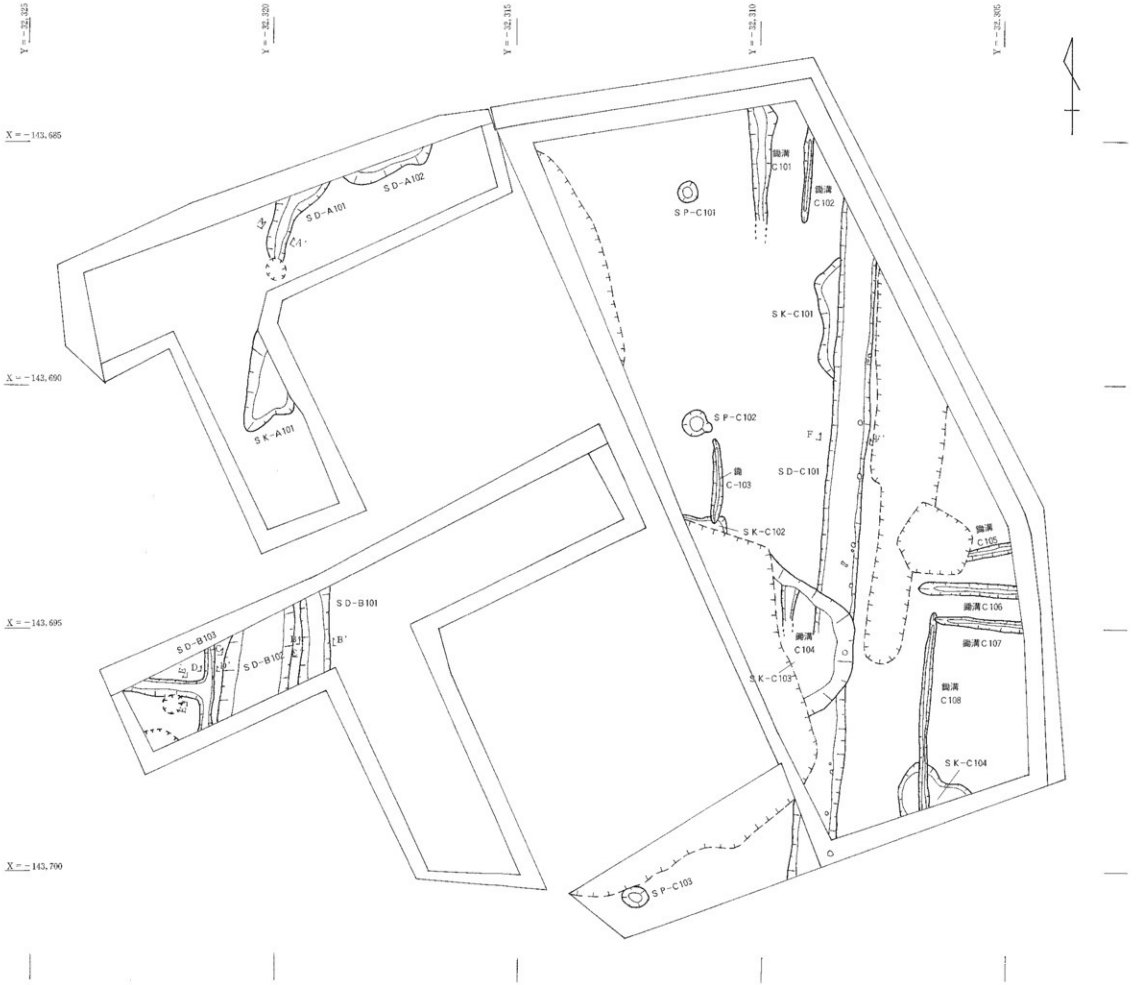
Ｄ３、Ｅ３区にかけて検出した。規模は幅約0.25m、深さ約0.02mを測る。埋土は黒灰色土である。遺物は磁器が出土している。

・鋤溝Ｃ107

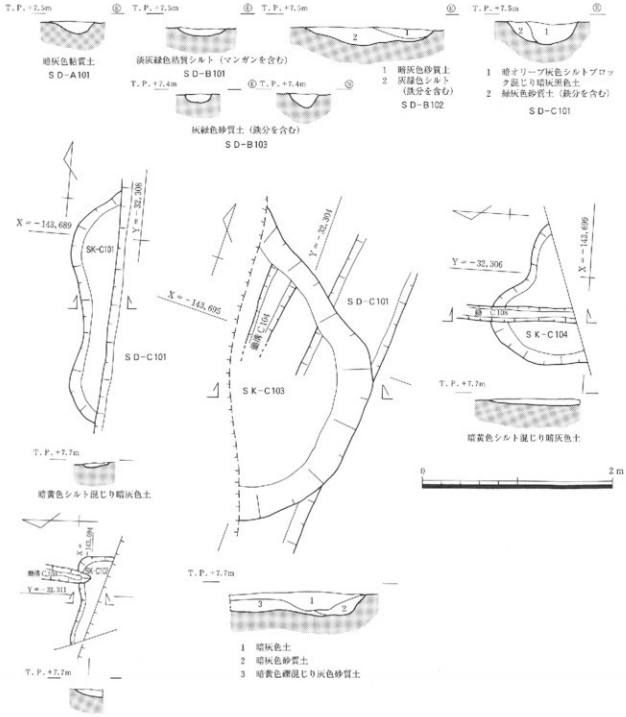
Ｄ３～４、Ｅ３～４区にかけて検出した。規模は幅約0.2m、深さ約0.04mを測る。埋土は黒灰色土である。遺物は出土していない。

・鋤溝Ｃ108

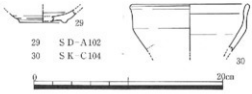
Ｄ３～４区にかけて検出した。規模は幅約0.2m、深さ約0.07mを測る。埋土は暗灰色土である。遺物は土師器が出土している。



第11図　第１遺構面全体図



第12図　第１遺構面各遺構平・断面図



29　SD-A102
30　SK-C104

第13図　第１遺構面出土遺物

第３節　第２遺構面

Ａ区第Ⅳ層、Ｃ区第Ⅳ層をベース面として、溝、土坑、ピットを検出している。標高はＡ区でＴ．Ｐ．＋6.9m、Ｃ区でＴ．Ｐ．＋7.3mを測る

１．溝

［Ａ区］

・ＳＤ－Ａ201

Ａ２で検出した。規模は幅約1.0m、深さ約0.09mを測る。埋土は鉄分を含む灰緑色粘質砂質土である。遺物は土師器、須恵器が出土している。

・ＳＤ－Ａ202

Ａ２～３区にかけて検出した。規模は幅約0.5m、深さ約0.15mを測る。埋土は鉄分を含む灰緑色粘質砂質土である。遺物は土師器、須恵器が出土している。

［Ｃ区］

・ＳＤ－Ｃ201

Ｄ３～４区にかけて検出した。規模は幅約0.55m、深さ約0.15mを測る。埋土は鉄分を含む灰緑色シルトである。遺物は出土していない。

・ＳＤ－Ｃ202

Ｄ３～４区にかけて検出した。規模は幅約0.25m、深さ約0.06mを測る。埋土は鉄分を含む灰緑色シルトである。遺物は土師器、瓦器が出土している。

・ＳＤ－Ｃ203

Ｄ２～４区にかけて検出した。規模は幅約0.3m、深さ約0.2mを測る。埋土は淡褐色シルトである。遺物は土師器、須恵器、黒色土器、サヌカイト片が出土している。

・ＳＤ－Ｃ204

Ｃ１～３、Ｄ１～３区にかけて検出した。規模は幅約0.7m、深さ約0.25mを測る。埋土は２層で、暗灰緑色シルト、礫混じりの黒褐色粘質シルトである。遺物は土師器、須恵器、瓦器が出土している。

・ＳＤ－Ｃ205

Ｃ１～３区にかけて検出した。規模は幅約0.35m、深さ約0.25mを測る。埋土は褐灰色シルトである。遺物は土師器、須恵器が出土している。

・ＳＤ－Ｃ206

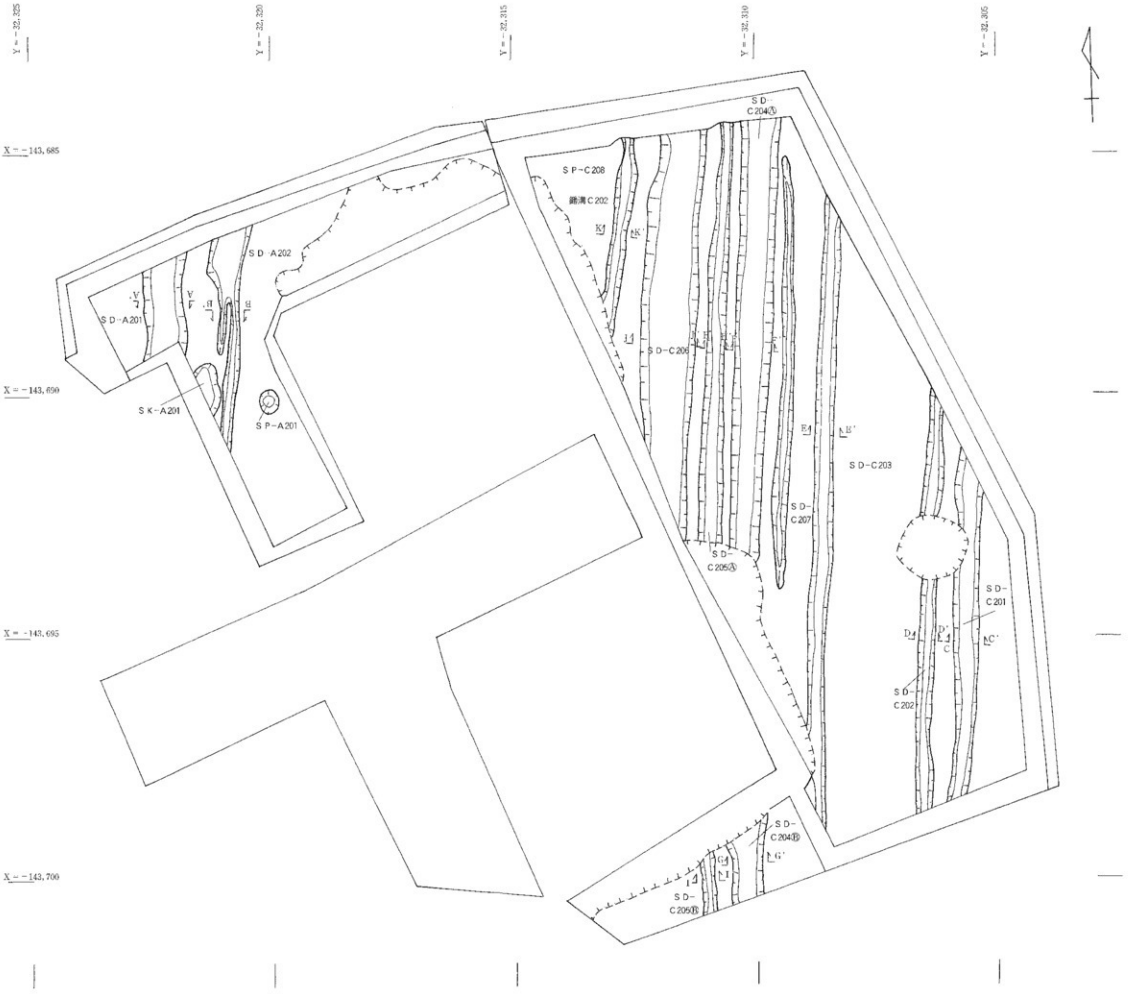
Ｃ１～３区にかけて検出した。規模は幅約1.3m、深さ約0.25mを測る。埋土は２層で、淡緑灰色シルト、灰褐色粘質シルトである。遺物は土師器、須恵器、瓦器、瓦質土器が出土している。

・ＳＤ－Ｃ207

Ｄ２～３区にかけて検出した。規模は幅約0.3m、深さ約0.04mを測る。遺物は出土していない。

・ＳＤ－Ｃ208

Ｃ１～２区にかけて検出した。規模は幅約0.5m、深さ約0.1mを測る。埋土は淡灰褐色シルトである。遺物は出土していない。



第14図　第２遺構面全体図

2．土坑

［A区］

・ＳＫ－Ａ201

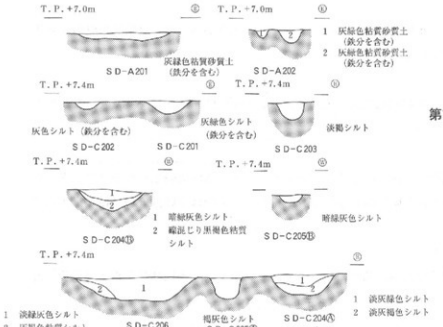
Ａ２～３区にかけて検出した。形態、規模は調査区外に広がるため明らかでない。埋土は灰緑色粘質砂質土である。遺物は出土していない。

3．ピット

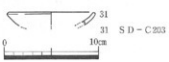
［A区］

・ＳＰ－Ａ201

Ａ２～３、Ｂ２～３区にかけて検出した。形態は円形を呈し、規模は径約0.4m、深さ約0.08mを測る。埋土は鉄分を含む灰緑色砂である。遺物は出土していない。



第15図　第２遺構面各遺構断面図



第16図　第２遺構面出土遺物

第４節　第３遺構面

Ａ区第Ⅵ層、Ｂ区第Ⅴ層、Ｃ区第Ⅴ層をベース面として、溝、土坑、ピット、不明遺構を検出している。標高はＡ区でＴ．Ｐ．＋6.7m、Ｂ区でＴ．Ｐ．＋6.8m、Ｃ区でＴ．Ｐ．＋7.0mを測る

１．溝

［Ａ区］

・ＳＤ－Ａ301

Ａ２区で検出した。規模は幅約0.75m、深さ約0.1mを測る。埋土は鉄分を含む緑灰色シルトブロック混じりの暗灰黒色砂質土である。遺物は土師器が出土している。

・ＳＤ－Ａ302

Ａ３、Ｂ３区にかけて検出した。規模は幅約0.25m、深さ約0.06mを測る。埋土は黒色粘土ブロック混じりの緑灰色砂である。遺物は出土していない。

［Ｂ区］

・ＳＤ－Ｂ301

Ａ３、Ａ４区にかけて検出した。規模は幅約0.35m、深さ約0.06mを測る。埋土は灰緑色砂混じりの灰緑色粘質シルトである。遺物は出土していない。

・ＳＤ－Ｂ302

Ｂ４区で検出した。規模は幅約0.2m、深さ約0.08mを測る。埋土は暗灰緑色粘質シルトである。遺物は出土していない。

・ＳＤ－Ｂ303

Ｂ３～４区にかけて検出した。規模は幅約0.25m、深さ約0.08mを測る。埋土は暗灰色粘質シルトである。遺物は木片が出土している。

・ＳＤ－Ｂ304

Ｂ３～４区にかけて検出した。規模は幅約0.15m、深さ約0.06mを測る。埋土は暗灰色粘質シルトである。遺物は須恵器が出土している。

・ＳＤ－Ｂ305

Ｂ３～４区にかけて検出した。規模は幅約0.4m、深さ約0.13mを測る。埋土は黒灰色粘質シルトである。遺物は土師器が出土している。

・ＳＤ－Ｂ306

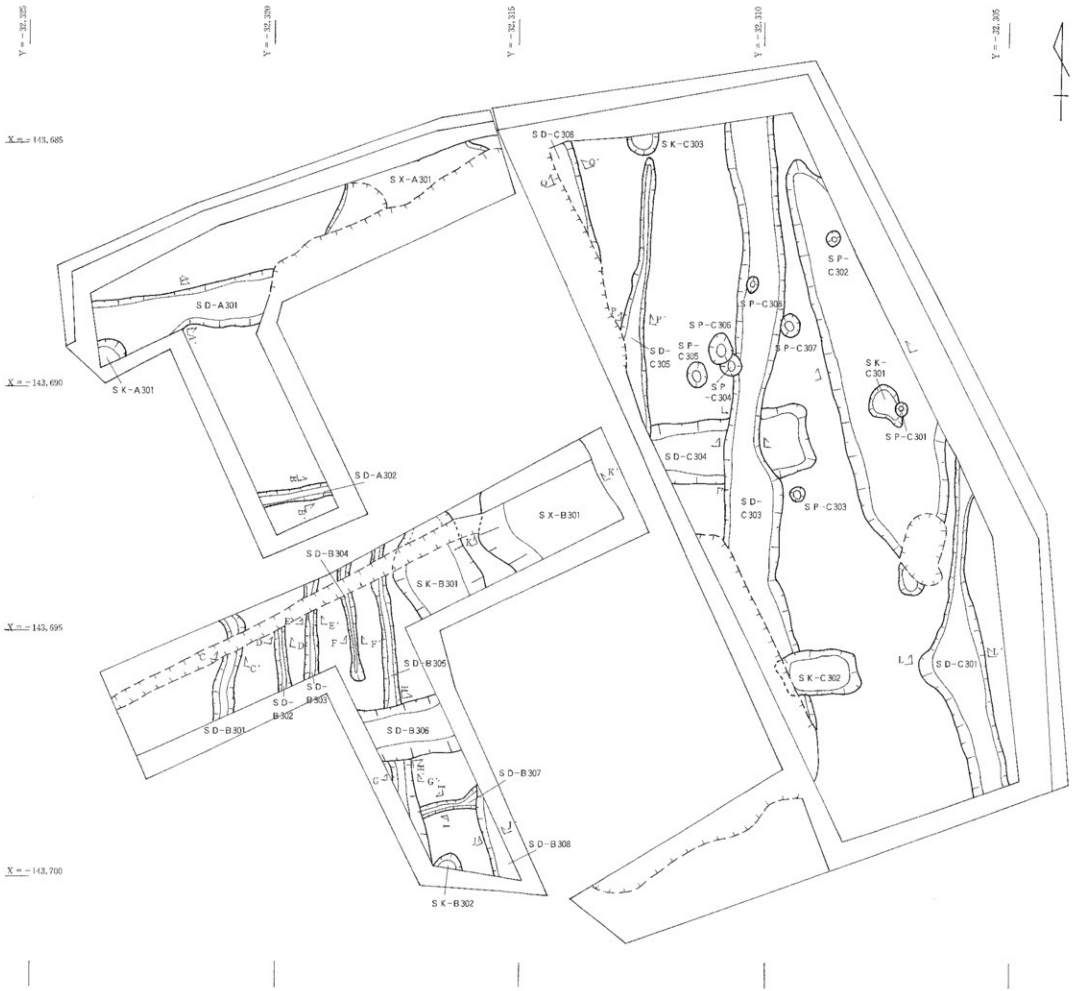
Ｂ４区で検出した。規模は幅約0.15m、深さ約0.23mを測る。埋土は淡灰緑色シルトブロック、黒色粘土ブロック混じりの鉄分を含んだ暗灰緑色粘質シルトである。遺物は土師器、須恵器が出土している。

・ＳＤ－Ｂ307

Ｂ４区で検出した。規模は幅約0.25m、深さ約0.04mを測る。埋土は暗灰色粘質シルトである。遺物は土師器が出土している。

・ＳＤ－Ｂ308

Ｂ４区で検出した。規模は調査区外に広がるため明らかでない。埋土は黒灰色粘質シルトである。遺物は土師器が出土している。



第17図　第３遺構面全体図

0　5m

［C区］

・SD-C301

D3～4区にかけて検出した。規模は幅約1.3m、深さ約0.12mを測る。埋土は灰色砂ブロック、青灰色粘質シルトブロック混じりの鉄分を含んだ灰青色粘質シルトである。遺物は土師器、須恵器が出土している。

・SD-C302

D2～3区にかけて検出した。規模は調査区外に広がるため明らかでない。埋土は灰色砂混じりの鉄分を含んだ褐灰色粘質シルトである。遺物は土師器、須恵器が出土している。

・SD-C303

C1～3、D1～3区にかけて検出した。規模は幅約0.6m、深さ約0.1mを測る。埋土は鉄分を含む灰緑色粘質シルトである。遺物は土師器、須恵器が出土している。

・SD-C304

C3、D3区にかけて検出した。規模は幅約1.3m、深さ約0.35mを測る。埋土は3層で、鉄分を含む灰褐色砂質土、砂礫混じりの灰緑色粘質シルト、砂礫混じりの暗灰黒色粘土である。遺物は土師器、須恵器が出土している。

・SD-C305

C2～3区にかけて検出した。規模は幅約0.45m、深さ約0.08mを測る。埋土は灰色粘質シルトである。遺物は土師器が出土している。

・SD-C306

C1～2区にかけて検出した。規模は調査区外に広がるため明らかでない。埋土は灰褐色砂質土である。遺物は土師器が出土している。

2．土坑

［A区］

・SK-A301

A2区で検出した。形態、規模は調査区外に広がるため明らかでない。遺物は出土していない。

［B区］

・SK-B301

B3区で検出した。形態、規模は調査区外に広がるため明らかでない。埋土は2層で、黄褐色シルト混じりの灰色粘質シルト、暗灰緑色砂混じりの鉄分を含む粘質シルトである。遺物は土師器、須恵器が出土している。

・SK-B302

B4区で検出した。形態、規模は調査区外に広がるため明らかでない。遺物は出土していない。

［C区］

・SK-C301

D2～3区にかけて検出した。形態は不定形を呈し、長径約0.9m、短径約0.65m、深さ0.07mを測る。埋土は緑灰色粘質シルトである。遺物は出土していない。

・SK-C302

D4区で検出した。形態は隅丸の長方形を呈し、長径約1.65m、短径約0.9m、深さ約0.18mを測

る。埋土は２層で、暗灰青色シルト、黒褐色粘質シルト～粘土である。遺物は土師器、須恵器が出土している。

・ＳＫ－Ｃ303

Ｃ１～２区にかけて検出した。形態、規模は調査区外に広がるため明らかでない。埋土は２層で、灰褐色砂質土、灰黄色砂質土である。遺物は出土していない。

３．ピット

［Ｃ区］

・ＳＰ－Ｃ301

Ｄ３区で検出した。形態は円形を呈し、規模は径約0.25m、深さ約0.13mを測る。埋土は緑灰色砂質土である。遺物は土師器が出土している。

・ＳＰ－Ｃ302

Ｄ２区で検出した。形態は円形を呈し、規模は径約0.3m、深さ約0.08mを測る。埋土は緑灰色粘質シルトである。遺物は出土していない。

・ＳＰ－Ｃ303

Ｄ３区で検出した。形態は円形を呈し、規模は径約0.3m、深さ約0.05mを測る。埋土は緑灰色シルト混じりの灰色砂である。遺物は出土していない。

・ＳＰ－Ｃ304

Ｃ２区で検出した。形態は円形を呈し、規模は径約0.4m、深さ約0.04mを測る。埋土は褐灰色砂質土である。遺物は出土していない。

・ＳＰ－Ｃ305

Ｃ２区で検出した。形態は楕円形を呈し、規模は長径約0.55m、短径約0.4m、深さ約0.3mを測る。埋土は褐灰色砂質土である。遺物は出土していないが、柱根が残存していた。

・ＳＰ－Ｃ306

Ｃ２区で検出した。形態は楕円形を呈し、規模は長径約0.65m、短径約0.5m、深さ約0.13mを測る。埋土は褐灰色砂質土である。遺物は須恵器が出土している。

・ＳＰ－Ｃ307

Ｄ２区で検出した。形態は円形を呈し、規模は径約0.4m、深さ約0.24mを測る。埋土は褐灰色砂質土である。遺物は須恵器が出土している。

・ＳＰ－Ｃ308

Ｃ２区で検出した。形態は楕円形を呈し、規模は長径約0.35m、短径約0.23m、深さ約0.09mを測る。埋土は灰緑色粘質シルトである。遺物は出土していない。

４．不明遺構

［Ａ区］

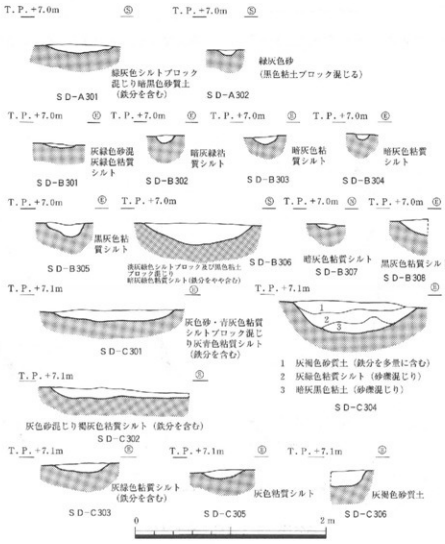
・ＳＸ－Ａ301

Ｂ１～２区にかけて検出した。形態、規模は調査区外に広がるため明らかでない。遺物は出土していない。

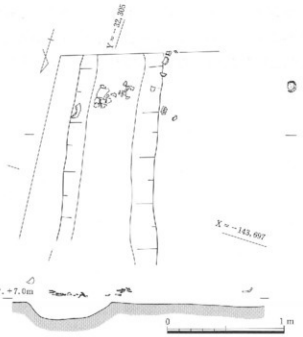
［Ｂ区］

・ＳＸ－Ｂ301

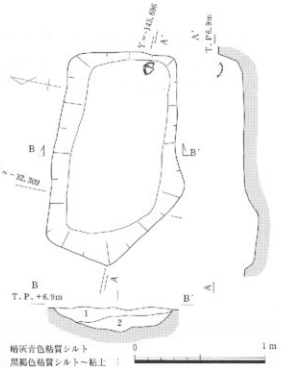
Ｂ３、Ｄ３区にかけて検出した。形態、規模は調査区外に広がるため明らかでない。埋土は４層で、褐黄色砂質土混じりの灰色シルト、褐黄色砂質土混じりの灰色砂質土、暗灰色粘質シルト、淡灰色シルトブロック、黒色粘土ブロック混じりの灰～暗灰色粘土である。遺物は土師器、須恵器が出土している。



第18図　第３遺構面各遺構断面図

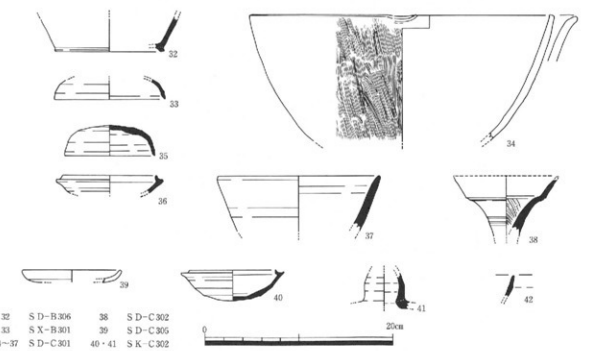


第19図　ＳＤ－Ｃ301平・断・遺物出土状況図



1　暗灰青色粘質シルト
2　黒褐色粘質シルト～粘土

第20図　ＳＫ－Ｃ302平・断・遺物出土状況図



32	ＳＤ－Ｂ306	38	ＳＤ－Ｃ302
33	ＳＸ－Ｂ301	39	ＳＤ－Ｃ305
34～37	ＳＤ－Ｃ301	40・41	ＳＫ－Ｃ302
		42	ＳＰ－Ｃ306

第21図　第３遺構面出土遺物

第5節　第4遺構面

C区基本層序第Ⅵ層をベース面として水田跡を検出した。A、B区では削平を受けたようで、対応する水田層は見受けられなかった。

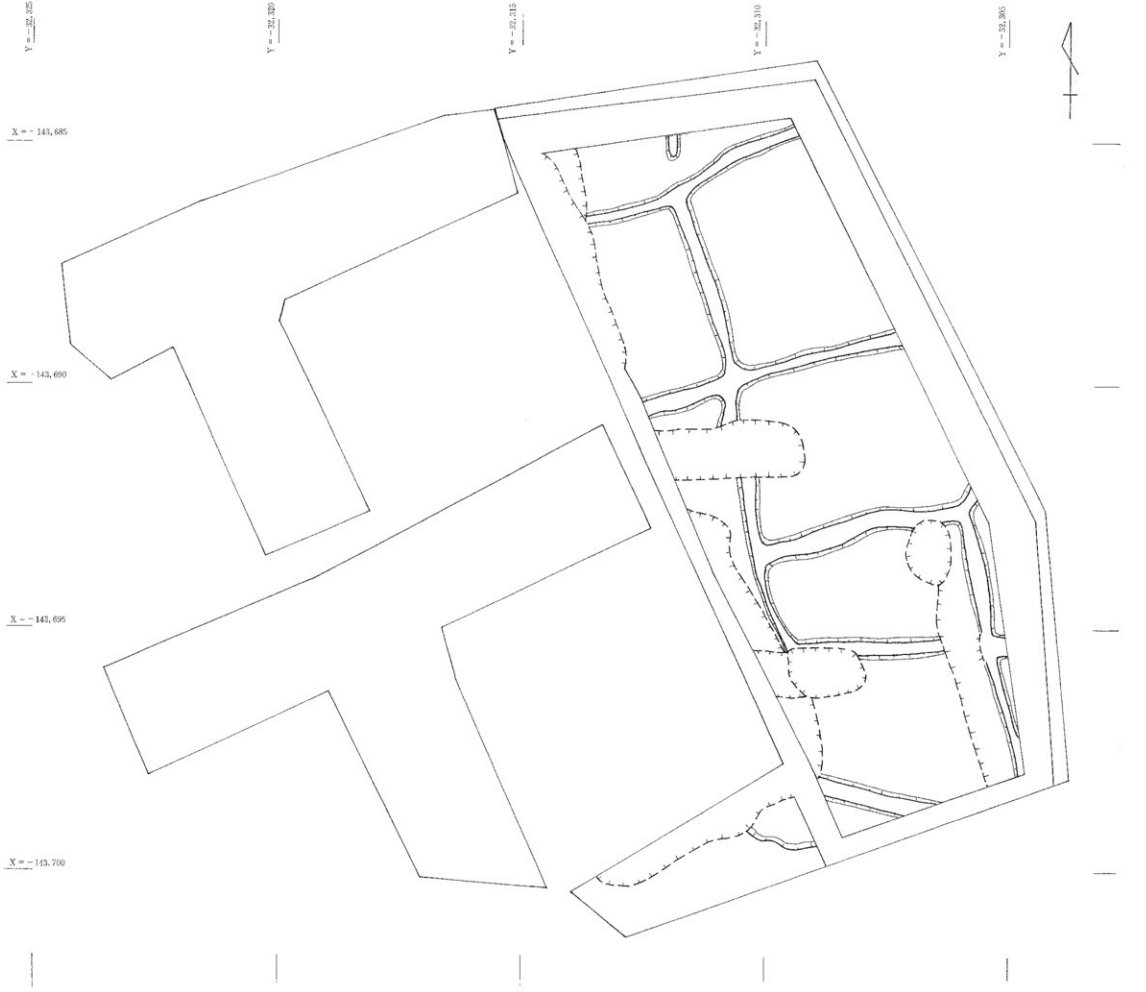
［C区］

・水田跡

C区全域にわたって検出したもので、上層の砂、微砂が厚く堆積していたため、非常に良好な状態で残されていた。

水田面はほぼ正方形～長方形の形態であると思われ、標高は平均約T．P．＋6.8mを測り、ほぼ水平な状況であったが、西側に位置するA区、B区において削平されていた状況を鑑みるに、水田としては東方に展開していたものと思われる。

また、畦畔は幅約0.4m、高さ約0.07mを測り、調査区北側では水口も見受けられた。遺物は畦畔から土師器、サヌカイト片が出土し、水田ベース層からは土師器、須恵器が出土している。



第22図　第４遺構面全体図

第６節　第５遺構面

Ａ区第Ⅶ層、Ｂ区第Ⅵ層、Ｃ区第Ⅸ層をベース面として、溝、土坑、不明遺構、自然河川を検出している。標高はＡ区でＴ．Ｐ．＋5.6～6.0m、Ｂ区でＴ．Ｐ．＋6.2m、Ｃ区でＴ．Ｐ．＋6.1mを測る

１．溝

［Ｂ区］

・ＳＤ－Ｂ401

Ｂ４区で検出した。規模は調査区外に広がるため明らかでない。埋土は２層で、黒灰色粘質シルト、灰黄色粗砂である。遺物は出土していない。

・ＳＤ－Ｂ402

Ａ４、Ｂ３～４、Ｃ３区にかけて検出した。規模は調査区外に広がるため明らかでない。遺物は縄文土器が出土している。

２．土坑

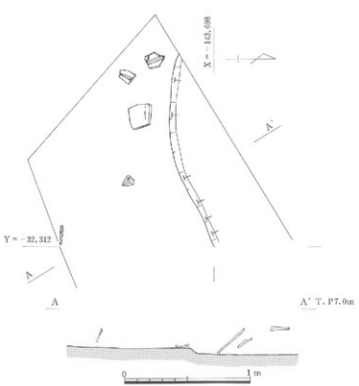
［Ｃ区］

・ＳＫ－Ｃ501

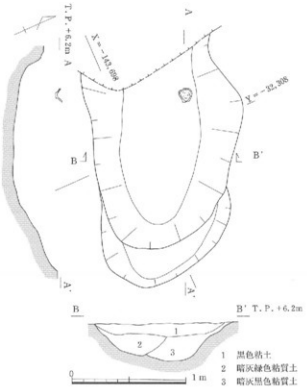
Ｄ４区で検出した。形態は不定形な楕円形を呈するものと思われ、規模は短径約1.2m、深さ約0.35mを測る。埋土は３層で、黒色粘土、暗灰緑色粘質土、暗灰黒色粘質土である。遺物は弥生土器が出土している。

４．不明遺構

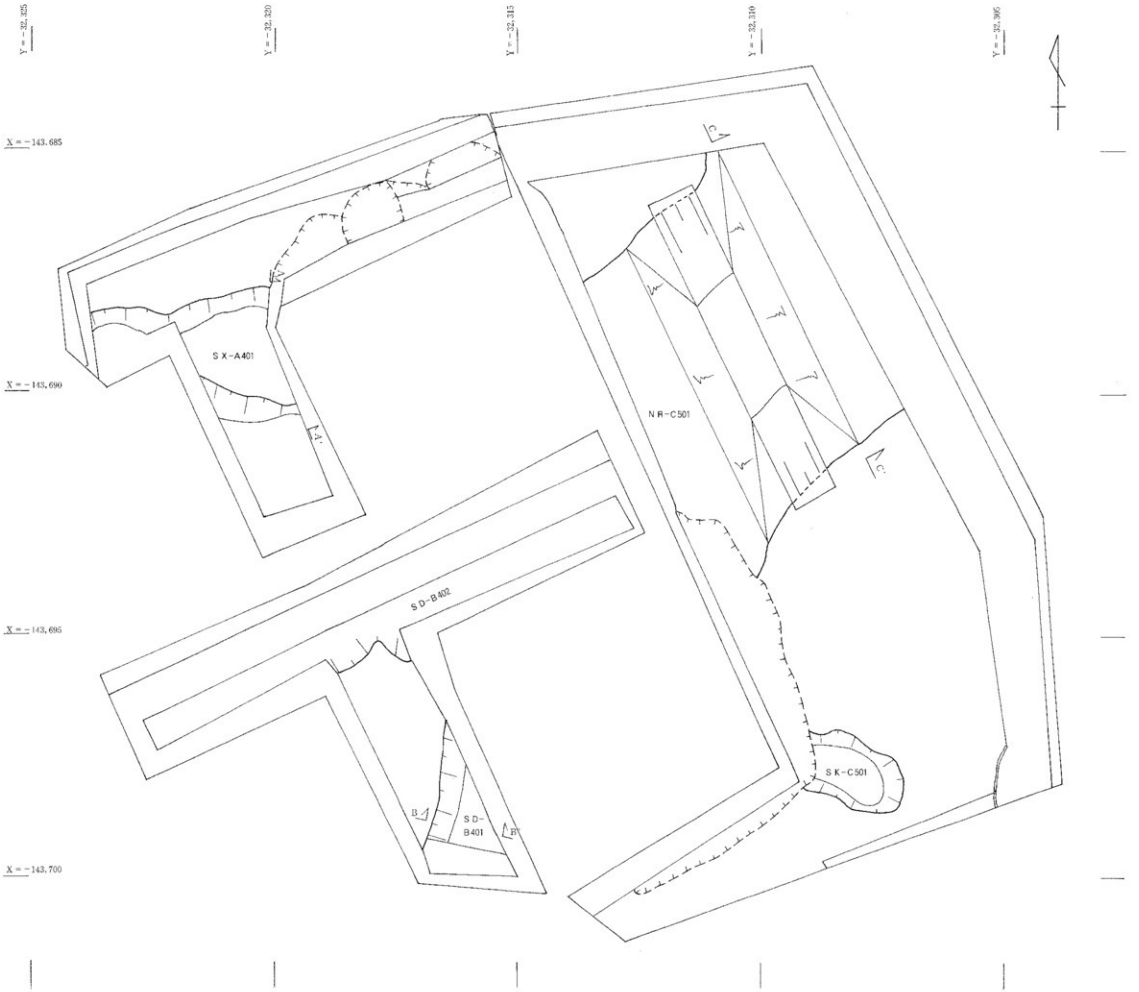
［Ａ区］



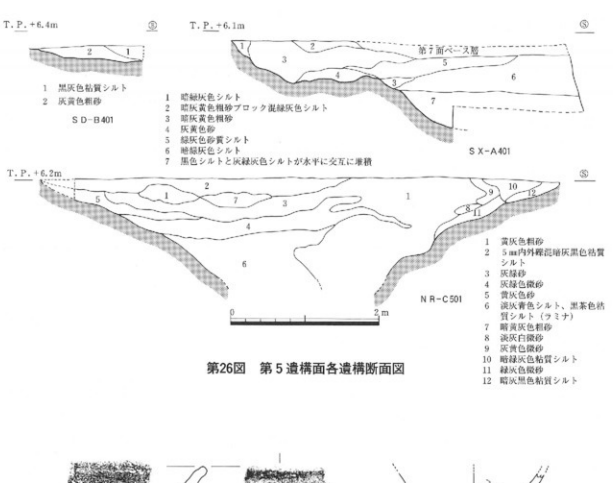
第23図　包含層（第５遺構面直上）遺物出土状況図



第24図　ＳＫ－Ｃ501平・断・遺物出土状況図



第25図　第５遺構面全体図



第26図　第５遺構面各遺構断面図

第27図　第５遺構面出土遺物

・ＳＸ−Ａ401

Ａ２〜３、Ｂ２〜３区にかけて検出した。形態、規模は調査区外に広がるため明らかでない。埋土は７層で暗緑灰色シルト、暗灰黄色粗砂ブロック混じりの緑灰色シルト、暗灰黄色粗砂、灰黄色砂、緑灰色砂質シルト、暗緑灰色シルト、黒色シルトと暗緑灰色シルトの互層である。遺物は弥生土器が出土している。

３．自然河川

［Ｃ区］

・ＮＲ−Ｃ501

Ｃ２〜３、Ｄ２〜３区にかけて検出した。規模は幅約7.9m、深さは約1.4m以上を測る。埋土は12層で黄灰色粗砂、礫混じりの暗灰黒色粘質シルト、灰緑色砂、灰緑色微砂、黄灰色砂、淡灰青色シルトと黒茶色粘質シルトの互層、暗黄灰色粗砂、淡灰白色微砂、灰黄色微砂、暗緑灰色粘質シルト、緑灰色微砂、暗灰黒色粘質シルトである。遺物は縄文土器と思われる遺物が出土している。

第5章　まとめ

中垣内遺跡においては、本調査も含め13次にわたる調査が実施されており、遺跡の様相についてはかなり明らかにされてきている。以下、各遺構面の調査成果について概括し、まとめとしたい。

〔第1遺構面〕

主に溝を検出しているが、周辺の既往の調査と同様に耕作に伴って形成されたものと思われる。出土遺物から時期的には近世以降に比定されるものと考える。

〔第2遺構面〕

主に溝を検出しているが、第1遺構面同様、耕作に伴って形成されたものと思われる。
出土遺物では土師器のほか、瓦器なども出土しており時期的には概ね中～近世にかけて比定されるものと考える。

〔第3遺構面〕

主に溝、土坑などを検出しているが、具体的な性格については明らかにし得ないものである。出土遺物から時期的には古墳時代後期～奈良時代にかけて比定されるものと考える。

〔第4遺構面〕

水田を良好な状態で検出しているが、周辺の既往の調査においても水田が多く確認されている。時期的には古墳時代前期から後期の範囲内に比定されているものが多いが、今回の水田については、水田のベース層から須恵器が出土していることから、概ね古墳時代中～後期に比定されるものと考える。

〔第5遺構面〕

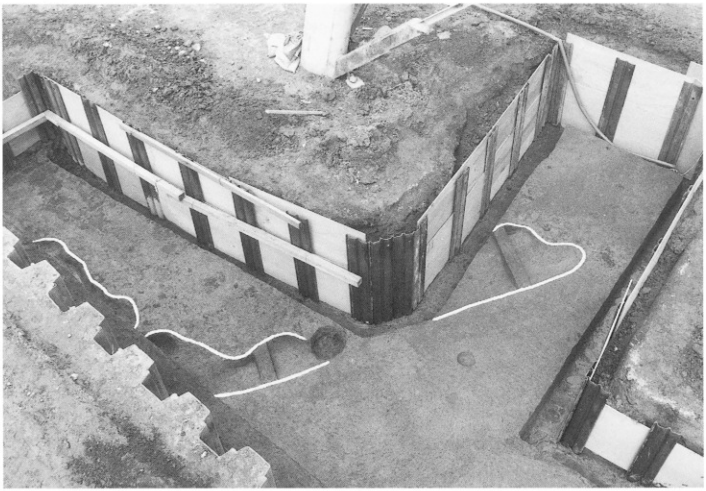
C区では東西に走る自然流路を検出しているが、A区、B区に至って若干、不明瞭になる状況であった。周辺の既往の調査においても最終面では自然河川を検出することが多く、今回の調査においても同様のものであった。出土遺物についても弥生土器のほか、縄文土器も出土することが多い。時期的には弥生時代以前に比定されるものと考える。大東市北部に位置する北新町遺跡の調査例からみても、大東市域の低地部においてはおおよそこのような様相を呈するものと思われる。

中垣内遺跡（ＮＧＴ96-1）出土遺物一覧表

挿図番号	器種	出土地点	法量（cm）	色調	胎土	焼成	技法の特徴	備考
1	瓦器 椀	B区 第1層	口径（復）17.5 器高（残）3.0	外）黒灰 内）黒灰 断）灰白	良好	密	外面：ナデ、指押さえ、ナデ 内面：ナデ、ヘラミガキ	
2	土師器 皿	B区 第1層	口径（復）8.3 器高（残）1.45	外）にぶい黄橙 内）にぶい黄橙 断）にぶい黄橙	良好	密	外面：ナデ 内面：ナデ	外面に粘土紐接合痕
3	土師器 皿	A区 第1層	口径（推）8.4 器高（残）1.7	外）灰黄 内）灰黄 断）灰黄	良好	密	外面：ナデ、指押さえ 内面：磨滅のため不明	
4	陶器円板	C区 第1層	長軸 6.4 短軸 6.5 厚 2.25	表）黄灰 裏）灰オリーブ	堅緻	密	周囲打ち欠き	瓶津焼椀より転用
5	磁器 染付椀	C区 第1層	高台径（復）4.2 器高（残）2.5	外）／ 内）／ 断）／	堅緻	密	内外面施釉、高台部外面は貫付・釉剥ぎ、見込みは蛇ノ目釉剥ぎ	肥前 高台内縁れ砂付着
5	弥生土器 甕	C区 第1層	底径 3.7 器高（残）2.5	外）橙 内）灰 断）黄灰	良好	やや粗	外面：磨滅のため不明 内面：板ナデ	底部丸底
7	土師器 杯	C区 第1層	口径（推）12.7 器高（残）3.2	外）橙 内）橙 断）橙	良好	密	外面：磨滅のため不明 内面：磨滅のため不明	
8	土師器 杯	C区 第1層	口径 15.7 器高（残）4.2	外）にぶい橙 内）橙 断）灰白	良好	密	外面：ナデ 内面：磨滅のため不明	
9	土師器 杯	C区 第1層	口径（復）17.0 器高（残）3.8	外）橙 内）にぶい赤褐 断）にぶい赤褐	良好	密	外面：磨滅のため不明 内面：ナデ、煤文	
10	円筒埴輪	C区 第1層	器高（残）6.4	外）橙 内）橙 断）橙	無質	やや粗	外面：ハケメ 内面：ナデ	
11	須恵器 杯蓋	C区 第1層	口径（推）11.6 器高（残）3.2	外）灰 内）灰 断）暗青灰	堅緻	密	外面：回転ヘラケズリ、回転ナデ 内面：回転ナデ、ナデ	外面に降灰
12	須恵器 杯身	C区 第1層	底径（推）7.7 器高（残）1.15	外）灰 内）灰 断）灰白	堅緻	密	外面：回転ナデ、ヘラ状工具の痕跡 内面：ナデ	
13	須恵器 壺	C区 第1層	口径（復）10.0 器高（残）2.7	外）灰 内）灰 断）灰白	堅緻	密	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	
14	須恵器 甕	C区 第1層	口径（推）33.0 器高（残）1.9	外）灰 内）灰 断）灰白	堅緻	密	外面：回転ナデ、列点文 内面：回転ナデ	口縁部外面に降灰
15	須恵器 高杯	C区 第1層	底径 7.25 器高（残）3.3	外）灰白 内）灰白 断）灰白	堅緻	密	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	
16	須恵器 台	C区 第1層	底径（推）47.5 器高（残）2.95	外）灰白 内）明オリーブ灰 断）灰白	堅緻	密	外面：回転ナデ、波状文 内面：回転ナデ	外面に降灰
17	黒色土器 椀	C区 第1層	高台径（復）9.5 器高（残）2.1	外）にぶい赤褐 内）黒灰 断）灰白	良好	密	外面：ナデ 内面：ナデ、ヘラミガキ	A類
18	瓦器 皿	C区 第1層	口径 8.2 器高 1.2	外）灰白 内）灰白 断）灰白	やや不良	密	外面：指押さえ 内面：ナデ、ヘラミガキ	粘土紐接合痕
19	縄文土器	B区 第1層	器高（残）3.3	外）にぶい褐 内）黄褐 断）黒褐	良好	やや粗	外面：ナデ 内面：ナデ	
20	縄文土器	B区 第1層	器高（残）4.6	外）褐灰 内）黄褐 断）灰黄褐	良好	やや粗	外面：ナデ、突帯に刻み 内面：ナデ	
21	須恵器 杯蓋	A区 第1層	口径（推）9.5 器高 3.3	外）明青灰 内）灰白 断）灰白	堅緻	密	外面：回転ナデ 内面：ナデ	
22	須恵器 壺	C区 第1層	口径（推）7.2 器高（残）4.3	外）暗緑灰 内）灰白 断）青灰	堅緻	密	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	
23	弥生土器 甕	C区 第1層	底径 4.0 器高（残）1.2	外）にぶい赤褐 内）にぶい黄橙 断）灰黄褐	良好	密	外面：タタキメ 内面：指押さえ、ナデ	
24	土製品	C区 第1層	長（残）29.6 幅（残）33.5	外）灰白 内）灰白 断）灰白	良好	密	外面：ナデ 内面：指押さえ、ナデ	移動式竈か
25	手焙上器 小皿	A区 第1層	口径（復）6.5 最大径（復）8.0 器高（残）5.1	外）にぶい黄 内）灰 断）灰	良好	密	外面：ナデ 内面：指押さえ、ナデ	
26	弥生土器 壺	C区 第1層	口径（復）16.2 器高（残）3.4	外）橙 内）明褐 断）褐灰	良好	やや密	外面：磨滅のため不明 内面：磨滅のため不明	
27	弥生土器 底	C区 第1層	底径 2.5 器高（残）1.9	外）灰黄 内）にぶい黄橙 断）にぶい黄橙	良好	やや粗	外面：タタキメ 内面：板ナデ	外面煤付着
28	土製品 人形	C区 第1層	残高 3.9 幅 4.05 厚 2.4	外）浅黄橙 内）浅黄橙 断）浅黄橙	良好	密		型作り、尊像名不明
29	陶器 皿	A区 SD－A 102	高台径（推）5.0 器高（残）1.4	底）白 釉）淡黄	堅緻	密	外面：回転ヘラケズリ、露胎 内面：施釉、沈線、釉剥ぎ	瀬戸
30	陶器 椀	C区 SK－C 104	口径（推）12.3 器高（残）5.2	底）白 釉）暗赤	堅緻	密	外面：施釉、一部ロクロケズリ、露胎 内面：施釉	瀬戸美濃天目椀
31	土師器 皿	C区 SD－C 202	口径（推）9.0 器高（残）1.3	外）浅黄 内）浅黄 断）浅黄	良好	密	外面：磨滅のため不明 内面：ナデ	
32	須恵器 壺	B区 SD－B 306	底径（推）11.4 器高（残）3.8	外）灰 内）灰 断）灰	堅緻	密	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	
33	須恵器 杯蓋	B区 SD－B 301	口径（推）11.7 器高（残）2.1	外）灰 内）灰 断）灰	堅緻	密	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	

図版番号	器種	出土地点	法量(cm)	色調	胎土	焼成	技法の特徴	備考
34	土師器 片口鉢	CK SD－C 301	口径(復) 32.4 器高(残) 13.4	外)にぶい黄橙 内)にぶい黄橙 断)にぶい黄橙	良好	やや粗	外面：ハケ目 内面：ナデ	外面煤付着
35	須恵器 杯蓋	CK SD－C 301	口径(復) 9.6 器高 3.1	外)灰白 内)灰白 断)灰白	堅緻	密	外面：回転ナデ,回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ，ナデ	外面に降灰
36	須恵器 杯身	CK SD－C 301	口径(復) 13.2 器高(現) 1.95	外)灰白 内)灰白 断)明オリーブ灰	堅緻	密	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	
37	須恵器 鉢	CK SD－C 301	口径(復) 17.1 器高(残) 5.95	外)明青灰 内)明青灰 断)灰白	堅緻	密	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面に降灰
38	須恵器 ハソウ	CK SD－C 302	口径(復) 11.1 器高(残) 6.4	外)明青灰 内)灰 断)青灰・灰白	堅緻	密	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	
39	土師器 皿	CK SD－C 305	口径 10.4 器高(残) 1.3	外)灰黄 内)にぶい黄橙 断)にぶい黄橙	良好	密	外面：ナデ 内面：磨滅のため不明	
40	須恵器 杯身	CK SK－C 302	口径(復) 9.0 器高 3.25	外)灰 内)灰 断)灰	堅緻	密	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面に降灰 底部にカマ記号
41	須恵器 蓋	CK SK－C 302	器高(残) 4.9	外)オリーブ灰 内)灰 断)灰	堅緻	密	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	
42	須恵器	CK SP－C 306	器高(残) 2.5	外)灰白 内)灰白 断)灰白	堅緻	密	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面に降灰
43	縄文土器	BK SD－B 402	器高(残) 4.3	外)にぶい黄褐 内)灰黄褐 断)灰黄褐	良好	やや粗	外面：磨滅のため不明 内面：磨滅のため不明	
44	弥生土器	CK－C SK－C 301	底径 9.7 器高(残) 5.9	外)にぶい黄橙 内)灰白 断)黒褐	良好	やや密	外面：ハケメ，指押さえ 内面：ハケメ	体部外面に煤付着

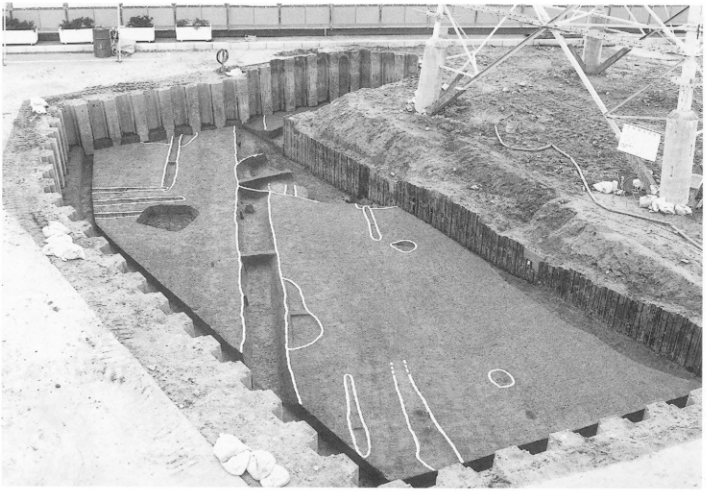
写　真　図　版



1．A区　第1遺構面全景（北より）

2．B区　第1遺構面全景（西より）

図版2　遺構(2)



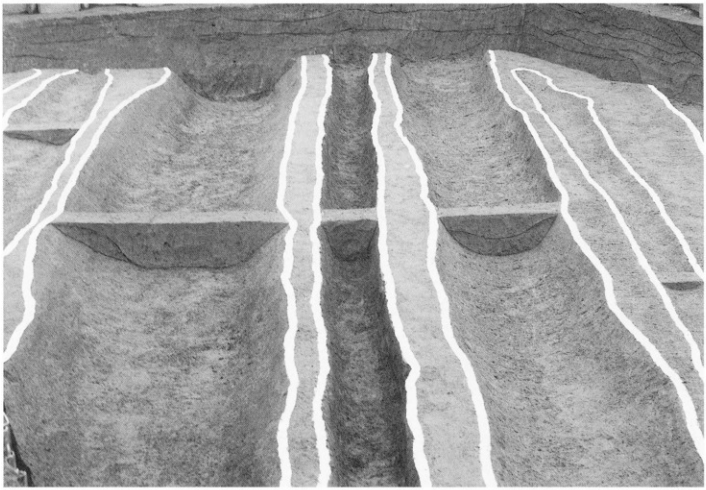
1．C区　第1遺構面全景（北より）

2．C区SD C101（北より）

1．A区　第2遺構面全景（北より）

2．C区　第2遺構面全景（北より）

図版4　遺構(4)



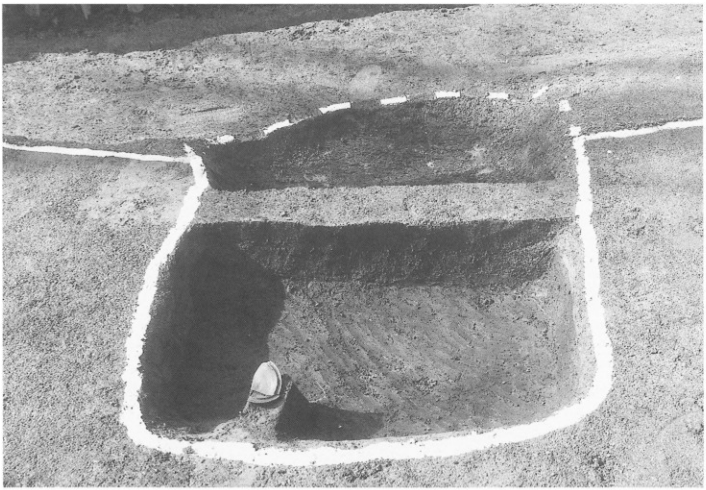
1．C区SD-C204・C205・C206（南より）

2．A区　第3遺構面全景（北より）

1．B区　第3遺構面全景（北より）

2．C区　第3遺構面全景（北より）

図版6　遺構(6)



1．C区　SK-C302（東より）

2．C区　SK-C302遺物出土状況

1．ＳＤ－Ｃ301遺物出土状況

2．同上（北より）

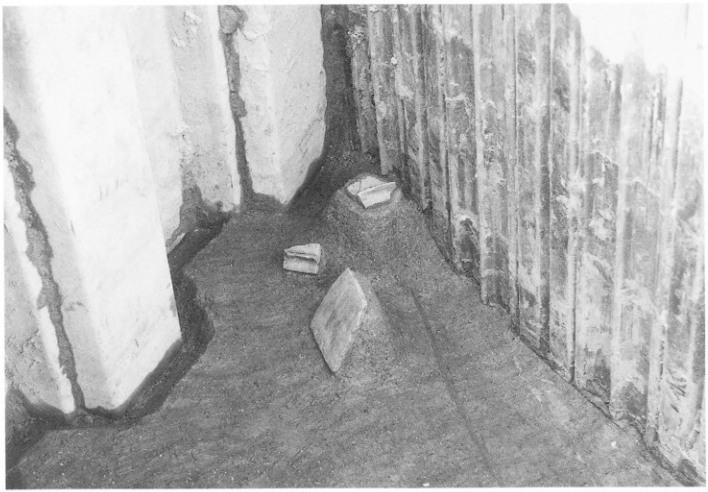
図版8　遺構(8)

1．C区　第4遺構面全景（北より）

2．C区　水田跡（南より）

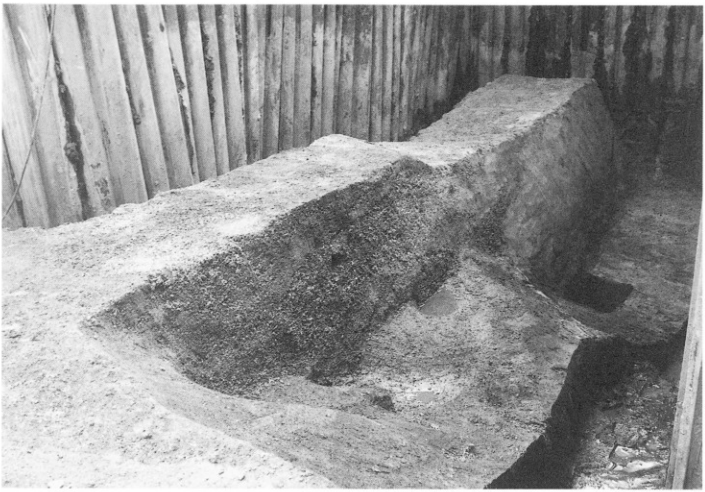
1．C区　水田跡（東より）

2．C区　水田跡水口（東より）

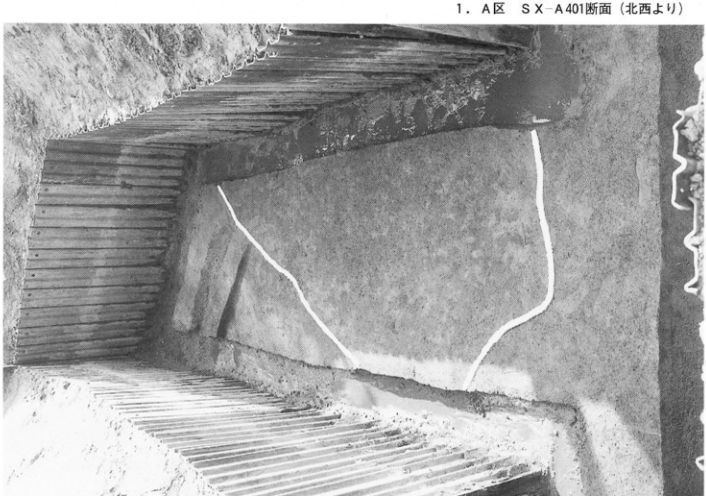


1．C区　第Ⅴ層遺物出土状況（南東より）

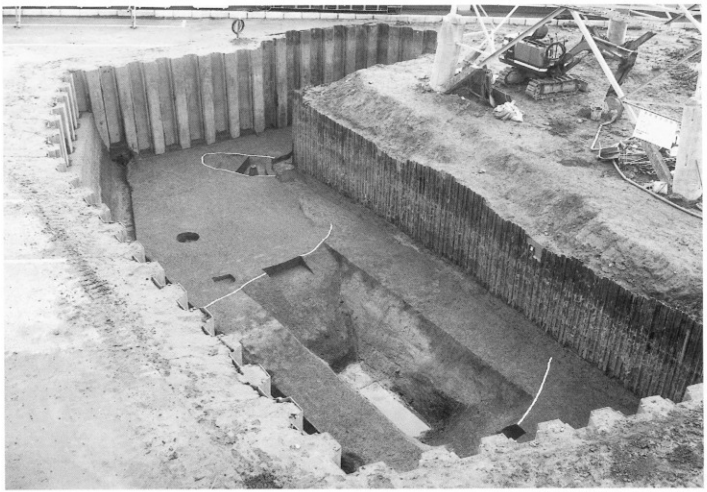
2．A区　SX－A401



1．A区　SX−A401断面（北西より）



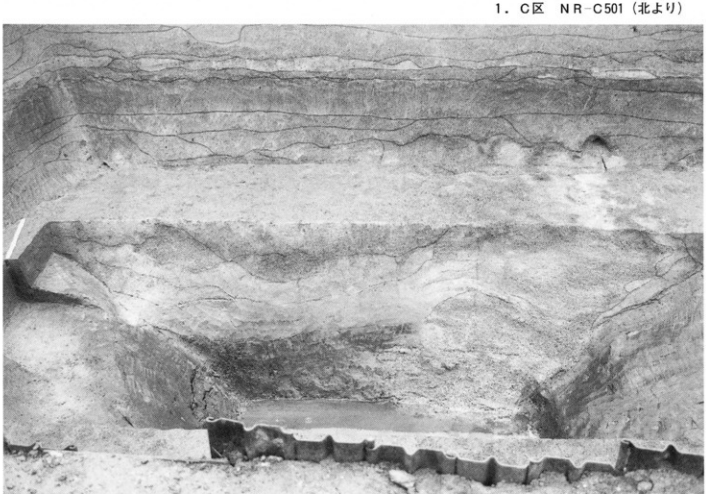
2．B区　第4遺構面全景（北より）



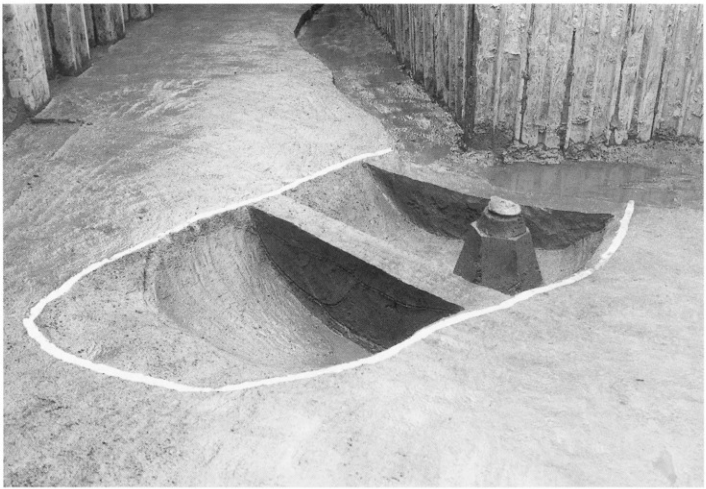
1．C区　第5遺構面全景（北より）

2．C区　第5遺構面全景（南より）

1．C区　NR−C501（北より）



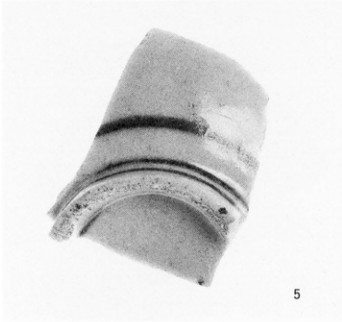
2．C区　NR−C501断面



1．C区　SK-C501（北より）

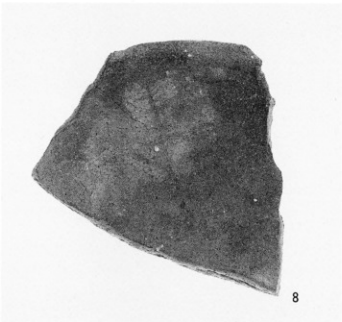
2．C区　SK-C501遺物出土状況（北より）

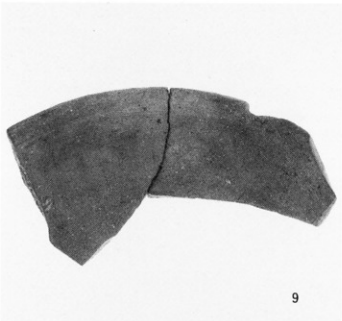
図版15　出土遺物(1)

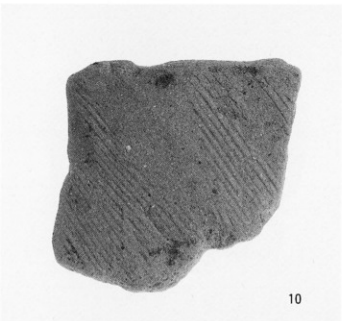


図版16　出土遺物(2)

7


8

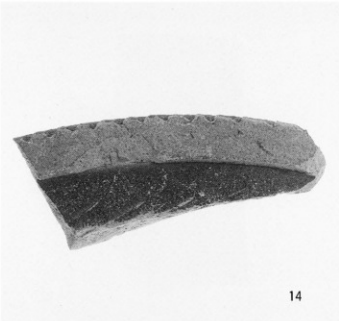

9


10

11

13

図版17　出土遺物(3)

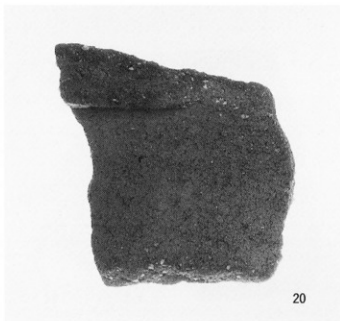

14

15

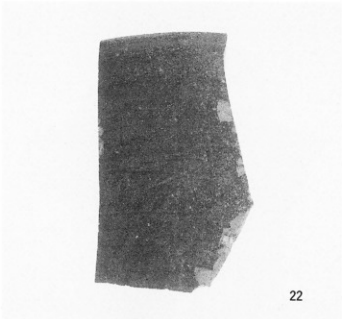
17

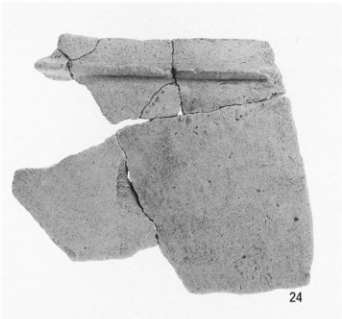
18

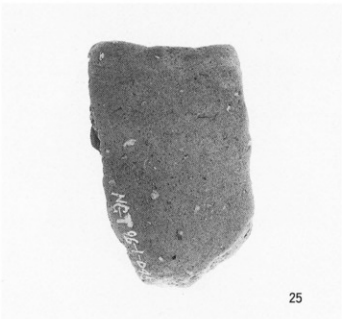
19


20

図版18　出土遺物(4)

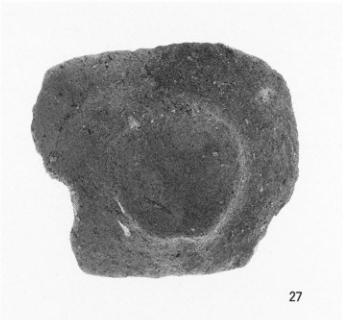




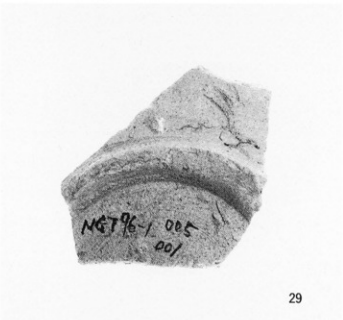


図版19　出土遺物(5)

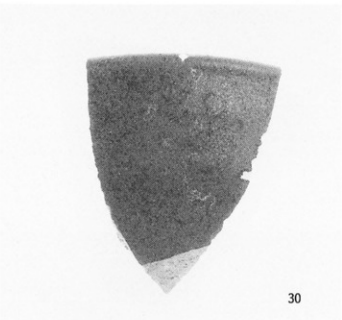
26


27

28



29

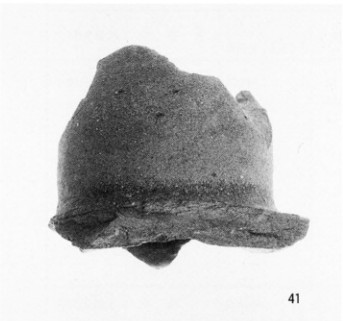

30

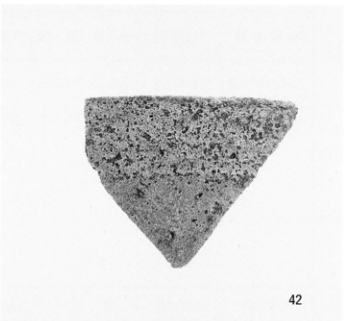
32

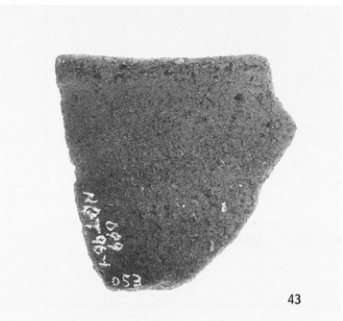
図版20　出土遺物(6)

39

40


41


42



43

44

報告書抄録

ふりがな	なかがいといせき
書名	中垣内遺跡
副書名	関西電力株式会社架空送電線鉄塔〔№256〕建替えに伴う発掘調査
巻次	
シリーズ名	大東市埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	第25集
編著者名	中速健一
編集機関	大東市教育委員会
所在地	〒574－8555　大阪府大東市谷川1－1－1　　TEL　072－872－2181
発行年月日	平成18年（2006）3月31日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
中垣内遺跡（なかがいといせき）	大阪府大東市中垣内（おおさかふだいとうしなかがいと）	27218	4	34°42′10″	135°38′42″	平成8年9月25日～平成9年2月25日	191.79㎡	関西電力株式会社架空送電線鉄塔〔No.256〕建替え

所収遺跡名（ふりがな）	種別	主な時期	主な遺構	主な遺物	特記事項
中垣内遺跡（なかがいといせき）	集落	縄文時代		土器	
		弥生時代	土坑、自然流路	土器	
		古墳時代	水田	土師器、須恵器	
		中世以降	鋤溝、溝、土坑	磁器、瓦器、土師器	

印刷物番号
１７－７４

大東市埋蔵文化財調査報告第25集

中 垣 内 遺 跡

－関西電力株式会社架空送電線鉄塔〔№256〕建替えに伴う発掘調査－

2006年３月31日発行

編集・発行　大東市教育委員会
〒574-8555　大東市谷川１丁目１番１号
TEL．072-872-2181

印刷・製本　株式会社ミラテック
〒534-0025　大阪市都島区片町２丁目９番９号
TEL．06-6354-3081